週刊 YEAR BOOK

1993
平成5年

日録20世紀

1/5·12
平成11年1月5·12日発行
(毎週1回火曜日発行)
第3巻第1号 通巻93号
平成10年8月21日第三種郵便物認可
¥560
講談社

皇太子・雅子さん、ご成婚!

猛毒「ダイオキシン」母乳から検出の衝撃!
グッズ売り上げ1200億円以上! Jリーグ開幕
"コカインの帝王"エスコバルついに射殺!

徳仁親王の恋、4度目のデートで実る
34年ぶりの“ご成婚”パレードに19万人の人波

皇太子・雅子さん「結婚の儀」

▲賢所で行われた「結婚の儀」にのぞまれる皇太子と雅子さん。皇太子の黄丹袍と雅子さんの十二単が、美しく映える。 共同通信社

平成五年一月六日、米国の「ワシントン・ポスト」紙が「皇太子妃は小和田雅子さん」とスクープ。日本列島はこのロイヤル・ウエディングに沸いた。皇太子の結婚は昭和三四年の現天皇・皇后ご成婚以来三四年ぶり。当日の六月九日には、結婚パレードの沿道に一九万人が出て、お二人の門出を祝福した。

静かな小和田邸周辺も原宿のような大混雑に

「皇太子殿下のご結婚にあたり、お使いとしてお迎えにあがりました」

平成五年六月九日午前六時一七分、東京・目黒の小和田邸に到着した山下和夫東宮侍従長が小和田雅子さん（二九）に告げる。雅子さんは低い声ながらしっかりと「よろしくお願いします」と答えた。

一〇分後、小和田邸のドアが開いた。雨の中を父の外務事務次官・小和田恒さん（六〇）、母・優美子さん（五五）、次女・礼子さん、三女・節子さん（ともに二六）が玄関先に並ぶ。東宮侍従に傘をさしかけられた雅子さんは、天皇差しまわしの「ニッサンプリンスロイヤル」に向かう足を止め、お手伝いの女性が抱く愛犬・ショコラの頭をなでてささやいた。

「ショコラちゃん、バイバイ」

雅子さんの乗った車を、地元住民が総出で見送った。洗足商店街振興組合の上原見道会長（当時・副会長）は、当日の盛り上がりを次のように振り返る。

「静かな住宅街の中の商店街なのに、まるで原宿みたいになっちゃって。私らはお祝いのセールを三日間やりまして、お

▲6月9日午後3時から、皇居・宮殿「松の間」で、「朝見の儀」がとり行われた。天皇・皇后に、「婚姻が終わりました」との報告をする儀式である。 共同通信社

▲「結婚の儀」当日の6月9日朝、小和田邸前には、500人近い報道陣が詰めかけた。写真は、愛犬のショコラに声をかける雅子さん。 毎日新聞社

◀パレードを終えて、新居の東宮仮御所に到着、なごやかに会話されながら、奥へ進まれるお二人。 毎日新聞社

◎表紙 パレードは午後4時45分、皇居を出発。午後5時17分、東宮仮御所に到着した。写真は、オープンカーの中から沿道の人たちに手を振るお二人。 共同通信社

徳仁親王の恋、4度目のデートで実る
34年ぶりの“ご成婚”パレードに19万人の人波

皇太子・雅子さん「結婚の儀」

相伴にあずかりました。うちは洋菓子屋なんですが、今も“プリンセス通り”というお菓子を売らせてもらっています」

午前一〇時四分、皇居の賢所で「結婚の儀」が始まった。皇太子徳仁親王（三三）は黄丹袍に黒の垂纓の冠、雅子さんは大垂髪に十二単。「結婚の儀」には、慣例で天皇と皇后は出席されない。賢所前左右の幄舎には秋篠宮夫妻ら皇族と宮沢喜一首相、雅子さんの両親など八一二人が参列した。

賢所内陣に入ったお二人はご神体に拝礼した後、皇太子が「永久に相睦み、相親しむことを誓う」という意味の告文を読みあげる。そして外陣に退き、掌典長が注ぐお神酒を飲み干し、そろって神前に拝礼して結婚は成立した。最初の大きな儀式は一六分間で終わった。

天皇、皇后に結婚を報告する「朝見の儀」は午後三時から皇居・宮殿「松の間」で行われた。皇太子は燕尾服、雅子さんはローブデコルテ姿。雅子さんの髪には皇太后、皇后と引き継がれてきたダイヤのティアラ（宝冠）が輝く。お二人は天皇と皇后に結婚のお礼を述べ、「九年酒」の杯を交わし、親子の固めをした。

「『朝見の儀』には天皇陛下からいただいた勲章を身につけ、初めてご挨拶にうかがうという意味があります。『九年酒』は契りの象徴ですから、お飲みになることはありません」

と、元東宮侍従の浜尾実氏は語る。

結婚パレードの時間が迫ってきた。しかし、雨はやまない。宮内庁は、晴れなら約四〇〇〇万円で購入したロールスロイス社のオープンカー「コーニッシュ」を使うことにしていた。だが、雨なら「ニッサンプリンスロイヤル」を使うしかない。出発五分前の午後四時四〇分、まるではかったように雨があがった。

パレードは定刻どおり出発する。コースは皇居正門から赤坂御所にいたる四・二五キロ。沿道の警戒には警察官三万人が動員され、一週間前から厳戒態勢が敷かれた。パレードが桜田門にさしかかる頃には西の空から明るい日差しがこぼれてきた。沿道には一九万人が詰めかけ、オープンカーの移動とともに歓声が波のように伝わっていく。

「雅子さんブーム」と「ミッチーブーム」の差

「小和田さんではだめでしょうか」

思うようにお妃選びが進まず、本人↖

パレード・コース

▲パレードは4.25キロのコースで行われた。

▶二重橋前交差点付近を行くパレード。この日、警視庁は他府県からの応援を含め、3万人の警察官を動員、厳戒態勢を敷いた。 朝日新聞社

が「三〇歳までに」と言っていた三〇歳もすぎた皇太子は、初めてご自身の意志をもらした。昭和六一年のスペイン王女歓迎レセプションで会って以来、外務省北米局北米二課に勤務する雅子さんに対する思いを募らせていたのであろう。皇太子が雅子さんに初めて会ったのは、ハーバード大学卒業後に東大に学士入学した雅子さんが、外交官試験に合格した直後であった。身長一六五ｾﾝﾁのスラリとしたキャリアウーマンの卵は、さぞかし印象的だったに違いない――。この異例とも言える皇太子の訴えは、一度にとどまらず、実に三度におよんだ。

平成四年四月、宮内庁筋が皇太子の意を受けて小和田家にアプローチ。ついに二人は八月に四年一〇ヵ月ぶりの再会をはたす。そして、一〇月三日の極秘デートでは皇太子がプロポーズしている。しかし、「住む世界が違いすぎる」との理由で、小和田家は辞退の返事をする。それでも皇太子はあきらめなかった。

「ぜひ、もう一度会っていただけませんか……」

皇太子の電話攻勢が始まる。一一月二八日、ようやく三度目のデートにこぎつけた。皇太子の「雅子さんのことは、僕が一生全力でお守りしますから」との言葉が雅子さんを決意させたのか、一二月一二日の四度目のデートで、雅子さんは皇太子のプロポーズを受けた。

平成五年一月六日午後八時四五分、各テレビ局は、「皇太子妃、小和田雅子さんに内定」の緊急特別番組を放送し始める。新聞は二四紙が号外を発行した。「ワシントン・ポスト」紙が皇太子妃決定をスクープし、報道自粛の協定がすっ飛んだためだ。翌日からの日本列島は、小和田雅子さん一色に染まっていく。

『皇太子妃報道の読み方』（岩波ブックレット）などの著書があるジャーナリストの亀井淳氏は、『雅子さんブーム』とはいっても、『ミッチーブーム』にはほど遠かった。すでに国民の間では“皇室の重み”のようなものが軽減されており、皇太子妃が超スターたりえなくなった」と当時のブームを分析する。

皇太子徳仁親王は、ついに意中の人を射止めたのである。六月九日、日本テレビが一四時間連続で生放送したのをはじめ、NHK教育をのぞく各局は六～一〇時間をさいて皇太子のご結婚を報道し、祝福した。

“実用的”な皇室の納采品

平成5年4月12日、一般の結納にあたる「納采の儀」が小和田邸で行われた。皇太子の使者、菅野弘夫東宮大夫が「天皇、皇后両陛下のおぼしめしを受け、皇太子徳仁親王殿下には、本日、小和田雅子嬢に結婚の約をなすため納采を行われます」と口上を述べると、雅子さんは「謹んでお受けいたします」と答え、納采の儀は3分間ほどで終わった。

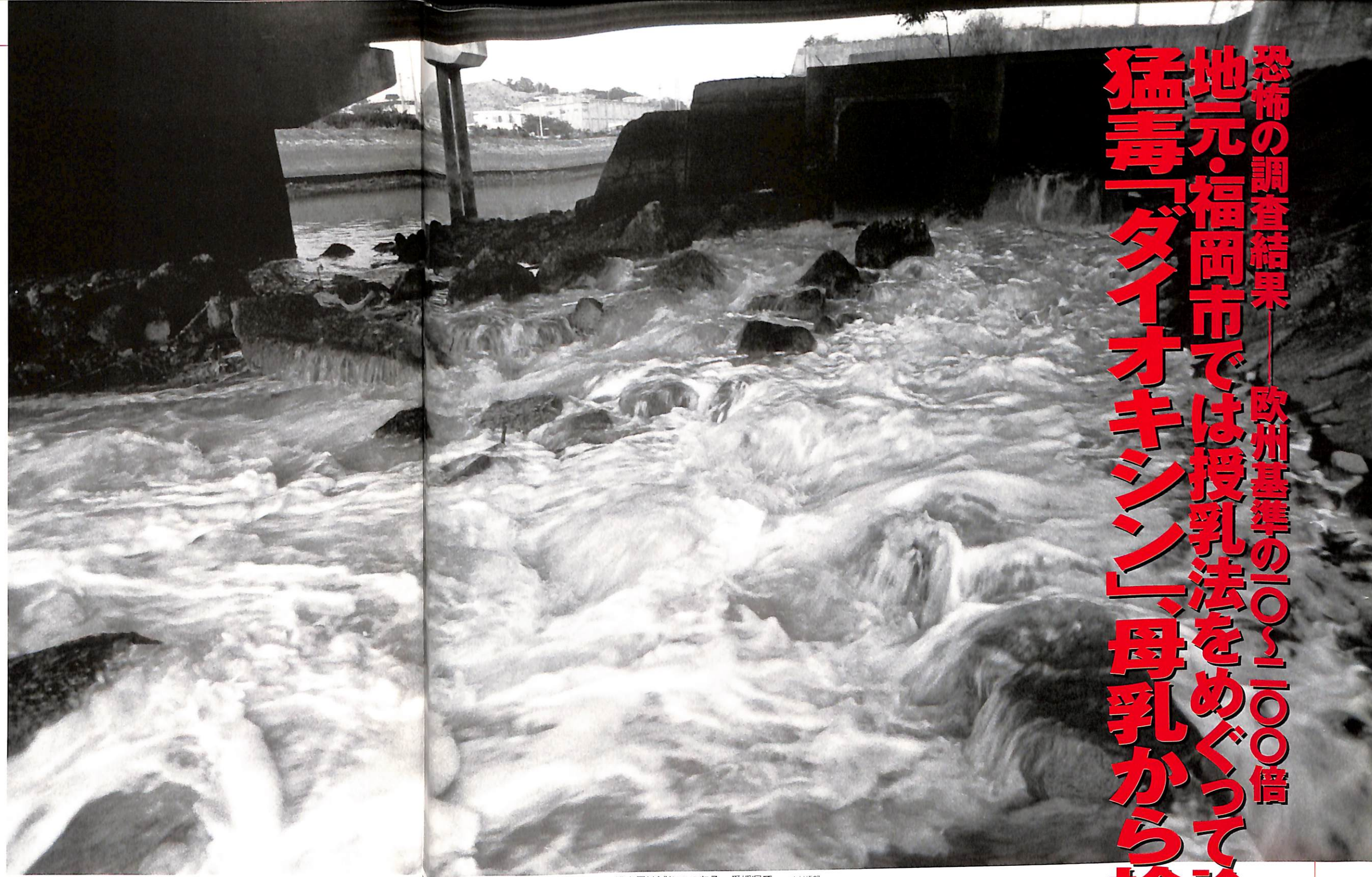
続いて納采の品々が披露される。これらの品は天皇と皇后が小和田家に納めるようにと皇太子に与えたもので、11メートルの絹の洋服生地5巻と清酒6本、それに「八」の字におかれた雌雄の鯛。洋服生地の文様は皇后が決め、「明暉瑞鳥錦」「四方の海」「呉竹」「やまなみ」「楽興の時」と名づけられている。後にローブデコルテに仕立てられ、饗宴の儀などで着用される。一般の結納品が長熨斗、目録、金包、松魚節、寿留女、子生婦、友志良賀、末広、家内喜多留の縁起物であるのに対し、皇室の納采品はきわめて実用的だ。

▲4月12日、「納采の儀」で、小和田邸の応接間におかれた納采の品々。右から洋服生地、清酒、鯛。 共同通信社

▲「結婚の儀」を翌日に控えた六月八日夜、玄関前で雅子さん（中央）を送る提灯行列にこたえる小和田家の人々。 毎日新聞社

恐怖の調査結果——欧州基準の一〇〜二〇〇倍

地元・福岡市では授乳法をめぐって論争も

猛毒「ダイオキシン」、母乳から検出！

▲紙・パルプ工場からの排水にも、ダイオキシンがまざっている。紙の漂白に塩素を用いるためだが、最近は、排出量は減りつつある。愛媛県で。　中村梧郎

「地球上で最も毒性の強い化学物質」と言われるダイオキシン。平成五年四月二二日、出産後の女性の母乳からその「最強の毒物」が検出されたというショッキングなニュースが報道された。先天性障害児を生み、環境ホルモンとして生殖・神経障害までも引き起こす〝ダイオキシン汚染〟は、今も我々の生活の奥深くで静かに進行している。

ダイオキシンの毒性はベトナム戦争が証明

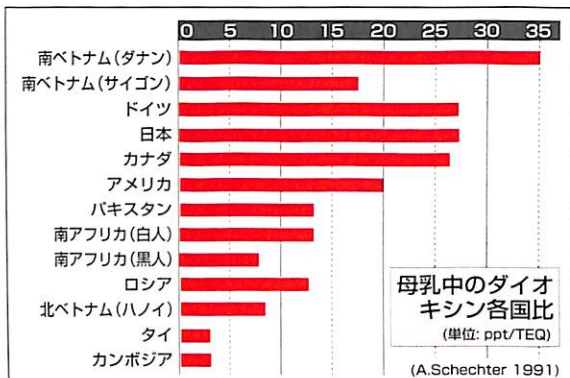
「母乳のダイオキシン　欧州基準の一〇〜二〇〇倍」

こんなショッキングなタイトルが、「朝日新聞」の夕刊におどったのは、平成五年四月二二日のことだった。

記事は、福岡市と周辺に住む出産後の女性一五人の母乳を調べたところ、猛毒のダイオキシンが検出されたという内容である。検出された数値からすると、赤ちゃんは体重一キロ当たり一日九五から二三〇ピコグラム（ピコは一兆分の一）のダイオキシンを母親から摂取することになる。

母乳に含まれるダイオキシンの数値が公表されたのは国内でも初めてのことだったが、その結果は、ヨーロッパの摂取許可基準（ドイツは体重一キロ当たり一日一ピコグラム、カナダでは一〇ピコグラム）の数十から数百倍というからなおさら衝撃的だった。

調査を行った九州大学医療技術短期大学部の長山淳哉助教授は、

「そもそものきっかけは、食品中毒を研究していた大学院時代に、ハッカネズミの胎児が母体から得るダイオキシンについて研究したのが始まりです。平成五年の調査は、市内の産婦人科医に紹介してもらった妊婦を対象に行いました。

ただし、こうした実態そのものは、昭和六一年に国内ですでに報告されています。同年の九月に福岡市で行われた『第六回ダイオキシンと関連化合物に関する国際シンポジウム』で、愛媛大学が先進工業国の女性の母乳はダイオキシンに汚染されていると報告したんです」

と、振り返る。

この報道後、福岡市では、「人工ミルクとの併用を」と訴える〝慎重派〟と、「ダイオキシンが検出されても飲めないわけではない」という〝推進派〟の医療関係者との間で論議が沸騰。これを受けて、市内の産院や保健所には、「母乳は本当に大丈夫ですか？」という、母親からの問い合わせが一日一〇件以上もあったという。しかし国内全体で言えば、この時点での関心はまだまだ薄かった。

そもそも「ダイオキシン」とは、有機塩素系化合物の一種「ポリ塩化ジベンゾ

◀東京湾中央防波堤外側埋め立て地での焼却灰埋め立て。この焼却灰の中にダイオキシンが。　中村梧郎

母乳中のダイオキシン各国比（単位: ppt/TEQ）

0　5　10　15　20　25　30　35

南ベトナム(ダナン)
南ベトナム(サイゴン)
ドイツ
日本
カナダ
アメリカ
パキスタン
南アフリカ(白人)
南アフリカ(黒人)
ロシア
北ベトナム(ハノイ)
タイ
カンボジア

(A.Schechter 1991)

（岩波書店「戦場の枯葉剤」より転載）

▶右はダイオキシン投与の母親から生まれる直前のマウス胎児。口と鼻の仕切りがない。左は正常な胎児。広島大学医学部・安田峯生教授の研究。　安田峯生提供

◀ダイオキシンは、ゴミ焼却炉の煙などから拡散、魚などの食物からも検出されている。写真はダイオキシンの検出作業。　中村梧郎

ダイオキシン」などの総称。七五種類あるが、「2・3・7・8―四塩化ダイオキシン」が最も毒性が強く、わずか一グラムで一万人が死亡し、発癌性や胎児に障害をもたらす催奇形性があるとされる。

▶ベトナム戦争で使用された枯れ葉剤「2・4・5・T」は、ダイオキシン濃度が高く、昭和四六年、日本でも使用禁止となり、各営林署では山中に埋めた。が、土壌汚染につながるという指摘も多い。写真は青森県市浦営林署の現場で。

中村梧郎

このダイオキシンの発生源の多くを占めると考えられるのが、ゴミ焼却施設と産業廃棄物の処理施設だ。土壌や海に蓄積されたダイオキシンは、「食物連鎖」によって順次濃縮され、最終的には人間の体に集約されてしまう。

ダイオキシンの毒性が、国際的に知られるようになったのは「ベトナム戦争」だった。米軍が南ベトナムにまいた枯れ葉剤に含まれる一七〇キロ以上のダイオキシンによって、同地域での流産は一八・一五パーセント（一九七八年）、二重体児のベトちゃん・ドクちゃんのような先天性奇形が起きる可能性は、二一・八パーセント（一九八八年）におよんだ。

福岡での調査の後、日本でダイオキシンへの関心を全国レベルに発展させたのは、平成八年に米国で出版され、反響を呼んだ本、『奪われし未来』である。

「この本で、生殖・免疫機能などを狂わす環境ホルモン（内分泌攪乱物質）の〝横綱〟がダイオキシンだと一般に浸透し、日本でも、身近な問題として考えられるようになったんです。もっと早く手を打っていればという批判はあるでしょう。しかし当時は、各分野で個別に行われていた研究を統合してとらえる学者がいなかったし、行政も立ちおくれていました」

と、高杉暹横浜市立大学名誉教授は語る。

化学物質が野放し 日本は「汚染天国」

現在も、日本のダイオキシン汚染はますます深刻化しているが、有効な対策が取られているとは言いがたい。

「灰・ガスの規制が欧米に比べて手ぬるい」との批判を内外から受けた日本政府は、ようやく平成一〇年、厚生省が東京、大阪などで産後の母親八〇人の母乳を調査。摂取されたダイオキシンは成人の許容量（体重一キロ当たり一日一〇ピコグラム）の六倍にのぼる、との中間報告を発表した。

しかし一方で、厚生省は「中間報告の程度なら心配ないから、母乳保育の利点を重視すべき」（母子保健課）との見解を繰り返す。成長後の被害は、調査結果が出ていないにもかかわらずである。

実際、平成一〇年六月には、茨城県竜ケ崎市で、清掃工場付近の住民の血液から最高で日本人の平均濃度の二〇倍以上のダイオキシンが検出された。

「竜ケ崎市の新生児死亡率は茨城県平均と比べると一・六倍、工場の煙が流れる南側地域での癌死亡率にいたっては、全国平均の約二倍です。ところが、惨状をこの三年間、厚生省や環境庁、茨城県に再三訴えても無視し続けたんです」

工場の操業差し止め訴訟を起こしている住民側原告団長の横田誠氏（現・七一歳）は、なかば溜息まじりに話す。

このほか、土壌から一〇〇ピコグラム以上ものダイオキシンが検出された埼玉県所沢市、大阪府豊能郡能勢町など各地で汚染例が報告されている。中でも、所沢市では七三世帯を調査したところ、妊娠した女性六人中、五人が流産、生まれてきた女児一人は左手首がなかったという衝撃的な事実が判明している。

政府はダイオキシン規制に乗り出してはいるが、「解明と対策には、化学、生物などの分野で横断的研究を行うことが不可欠」（高杉教授）などと、その態勢に疑問を投げかける声は多い。

前出の長山助教授も、次のように語る。

「ダイオキシンの毒性さえ完全に解明されていないのが実態。と同時に、この問題の本質はゴミ処理問題でもあります。産業廃棄物を減らし、自然と共存する社会システムや精神文化をいかに育てるか。それが今後は重要になるでしょうね」

▶昭和四五年、韓国兵としてベトナム戦争に参戦した康周寛は、それ以来ずっと皮膚障害に悩まされている。枯れ葉剤のダイオキシンが体内に入り、塩素痤瘡（クロルアクネ）を引き起こすためだ。

中村梧郎

女たちの肖像

「女盛りでこんなにも孤独」死の直前まで書き続けた作家・森瑶子の苦悩と美学

稲葉真弓

「女盛りで、そしてこんなにも孤独なのよ、と叫びたかった。三十代半ばで、女としても人間としても埋もれてしまうのはみじめすぎた」

エッセー集で〝女の心の孤独〟を吐露し、休む間もなく作品を発表し続けた作家・森瑶子（本名＝雅代・伊藤・ブラッキン）が急逝したのがこの年、平成五年七月六日のことだった。体調の異変に気づいたのが前年の四年の夏。当時、彼女は連載一〇本を抱える売れっ子作家。多忙とストレスが体をむしばみ、五年三月、胃癌の手術を受けた時はすでに手遅れだった。その約三ヵ月後、彼女は五二歳の生涯を閉じた。

〝日本のサガン〟〝恋愛小説の名手〟と言われた彼女の最期は、華麗でエレガントな作品世界と同様、〝森流美学〟に貫かれたものだった。「菊の花や、お線香は嫌い」と病室で洗礼を受け、聖イグナチオ教会に飾られた遺影は篠山紀信撮影のポートレート。この遺影も、死の直前にみずから選び、

▶小説のほか、エッセー、脚本など多方面で活躍。

トリミングを指示して逝ったという。

森瑶子ほど、女の心の飢え、孤独を執拗に書き続けた作家はいないだろう。同時に、おとなの男女の恋愛や心のときめきを率直に描き、都会的文体、お洒落なストーリーが多くのファンを惹きつけ、ライフスタイルも小説同様、女性たちの憧れをかきたてた。英国人の夫、ヨットや別荘のある暮らし。しかし彼女の作品は、主婦であるみずからの苦悩と不安から生まれたものだった。

昭和一五年、サラリーマンの家に生まれた彼女は、六歳からバイオリンを始め、東京芸術大学に入学。しかし、情熱が持てなくなって挫折。卒業後、仕事先の広告会社で出会った英国人のコピーライター、アイヴァン・ブラッキンと結婚、三女をもうけた。次女のマリアがその著書で描いた森瑶子の素顔によれば、夫婦の間には深刻な危機があったという。この危機を、森瑶子は書くことで乗り越えた。きっかけは画家・池田満寿夫の芥川賞受賞である。これに触発された彼女は、〝心の飢え〟を満たすため日々ノートに向かい、昭和五三年、処女作「情事」ですばる文学賞を受賞。その後「誘惑」「傷」「熱い風」などが相次いで芥川、直木賞候補になった。

それから一五年間、世に出た著書は一〇〇冊以上。苦悩を抱えつつ最後まで妻、母を貫いた森瑶子は、今、彼女が最も愛した、与論島の高台に眠っている。

勝者・敗者

楽しみながら世界の頂点へ 荻原健司、日本人初の偉業 ワールドカップ総合優勝！

阿部珠樹

前年、一九九二年のアルベールビル冬季五輪のノルディックスキー複合団体で、札幌五輪以来二〇年ぶりに金メダルを獲得した日本チームは、日本のスポーツ界に〝新しい世代〟が登場したことを、鮮烈に印象づけるものだった。

メダルの重圧などどこ吹く風、ほっぺたには日の丸をペイントし、ゴールでは日の丸の大きな旗を振りながらフィニッシュする、表彰式ではまるで学生のコンパのようなはしゃぎぶり、一部にはその姿に眉をひそめる向きもあったが、若者はそれを熱狂的に支持した。眦を決してメダルをねらう旧世代とは一線を画し、真にスポーツを楽しみつつ、世界の頂点をめざす、新しい日本選手の姿がそこにあったからだ。その金メダルチームの主力になったのが荻原健司（二三）である。オリンピックをきっかけに、世界のトップ選手の仲間入りをした荻原は、翌シーズンになると、快進撃を開始した。

いち早くものにした「V字ジャンプ」で大きくリードし、後半の距離で逃げ切るレース運びで、一九九二〜九三年のシーズン、ワールドカップで勝ち星を積み重ねて行く。

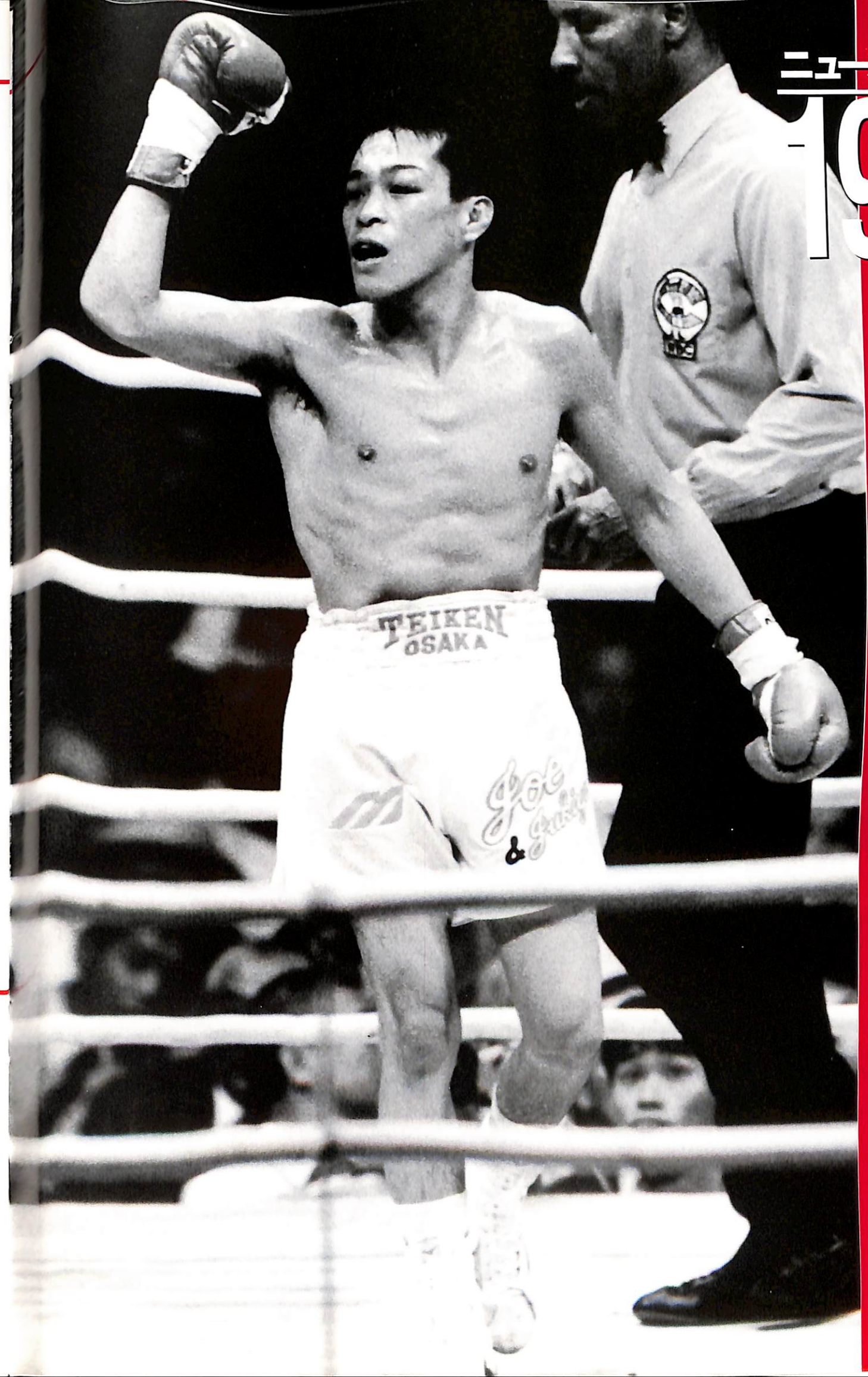
そして、この年、一九九三年三月六日、フィンランドのラハチで行われた試合で、前半のジャンプのリードを後半の距離で守ってシーズン五勝目をあげ、残り二戦を待たず、日本人初のワールドカップ総合優勝を決めた。

荻原はすでに二月に、世界選手権も制しており、名実ともに、世界の頂点に立ったのである。

日本ではなじみの薄いノルディック複合だが、ヨーロッパでの人気は高い。特にノルディック競技発祥の地であるノルウェー、フィンランドなどの北欧諸国では、複合の王者は、「キング・オブ・スキー」などと賞賛される。

荻原の人気もすさまじいもので、試合会場では、どこも「ケンジ、ケンジ」のコールが響き渡った。その歓声に対し、別段照れるでもなく、ごく自然にこたえ、気さくにサインする荻原の姿は、やはり、それまでの日本人選手の枠をはみ出す、新世代のものと言えた。

AP WWP

▲総合優勝を決めたラハチでのゴールイン。

読売新聞社

◀巨大タンカー同士が衝突(1月21日)スマトラ島北西端沖合での事故。双方とも日本のチャーター船で、うち1隻は炎上、漂流しながら2万トン以上の原油を流出した。

毎日新聞社

▲大学ラグビー、法大が25年ぶり日本一(1月6日)FWの藤原が残り2分で執念の再逆転、早大を30対27で破った。写真は、国立競技場で大喜びの法政フィフティーン。

読売新聞社

◀無残、矢ガモ(1月)洋弓で射殺されるカモが続出。東京・板橋の石神井川では、矢がささったまま生きる1羽を発見。翌月、上野・不忍池で保護された。

共同通信社

▲謎のマット死事件(1月13日)山形県新庄市の中学体育館(写真)で、「いじめ」にあっていた生徒が窒息死。裁判は二転、三転。真相は解明できなかった。

▼釧路沖で巨大地震(1月15日)M7.8。釧路と八戸の震度6は、日本で11年ぶりの烈震だった。関東以北の広い範囲で強い揺れを観測、釧路で二人が死亡した。

共同通信社

読売新聞社

▲東海港にプルトニウム到着(1月5日)未明、巡視船に守られ、専用船「あかつき丸」が入港。フランスで再処理されたプルトニウム1トンを、高速増殖炉「もんじゅ」用燃料として陸揚げした。

平成5年1月

1(金)●チェコとスロバキアが分離独立。
●EC統合市場発足。世界最大の経済圏に。

2(土)●ボスニアで、ムスリム・セルビア・クロアチアの三民族代表が初の直接交渉。

3(日)●米国とロシア、第二次戦略兵器削減条約調印。

4(月)●国連主催で、ソマリア和平会議開催。

5(火)●「あかつき丸」、プルトニウムを積み帰港。
●北海でタンカー座礁、史上最大規模の汚染に。

6(水)●米国農家が「コシヒカリ」栽培に成功と新聞に。

7(木)●米環境保護局、受動喫煙も非常に有害と結論。

8(金)●在日韓国・中国人など永住者の指紋押捺廃止。

9(土)●中国でヌード写真集が流行、と新聞に。

10(日)●伊豆半島沖で群発地震、四日間で二〇〇〇回。
●イラク軍、再びクウェートに侵入。

11(月)●富山県警、闇米を公然販売し、食管法違反での告発を「希望」していた販売業者を書類送検。

12(火)●中学二年の五七㌫が個室持つと『青少年白書』。

13(水)●山形県で、中学生が「マット死」。

14(木)●日航、大規模なリストラ計画を発表。人件費・投資を五年間で六〇〇〇億円削減。

15(金)●釧路沖でM七・八の地震。二人死亡。

16(土)●大学センター入試、過去最多の五一万人受験。

17(日)●米軍機、イラクの核関連施設を爆撃。

18(月)●運輸省、車の保安基準を大幅改正。時速五〇㌔での正面衝突に耐える衝撃吸収など義務づけ。

19(火)●イラクが一方的停戦を発表、国連査察機の乗り入れに合意。

20(水)●クリントン、第四二代米大統領に就任。

21(木)●スマトラ島沖でタンカー同士が衝突、炎上。

22(金)●大蔵省、前年の貿易黒字が過去最高と発表。

23(土)●若者の間に水晶の「お守り」が流行、と新聞に。

24(日)●大相撲、曙が二場所連続優勝(27日、横綱昇進決定、外国人初の横綱に)。

25(月)●米国、日独を安保理常任理事国に推すと表明。

26(火)●四輪車生産は二年連続前年割れ、と新聞に。

27(水)●貴ノ花と宮沢りえ、婚約解消を発表。

28(木)●文部省、軽度障害児が普通学校で学ぶ「通級」の制度化を決定。

29(金)●前年の一人当たり年間労働時間は一九七二時間、初めて二〇〇〇時間切る、と労働省調査。

30(土)●任天堂、衛星デジタル音楽放送(セント・ギガ)を買収し、衛星放送分野に進出すると発表。

31(日)●ローマで、観光旅行中の日本人女性六人、日本刀を持ったイラン人男性に次々と乱暴される。

フォト+日録で再現する365日

北海道南西沖地震、記録的な冷夏と集中豪雨、タンカー事故による北海の油汚染……。大規模災害が相次ぐ中、ゼネコン汚職が国民を啞然とさせた。海外では地域紛争が続発、国内では「五五年体制」崩壊、リストラ、長引く不況と雇用不安。激動の一年だった。

◀「浪速のジョー」無念(9月15日)7月22日に宿敵・ラバナレスを破って世界バンタム級王座を奪回した辰吉丈一郎(23)が、網膜剥離のため引退の窮地に。しかし平成6年、執念の復帰。9年には王者に返り咲いた。
「FRIDAY」/講談社

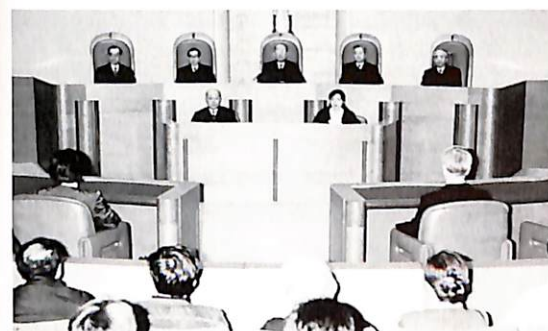
読売新聞社

AP/WWP

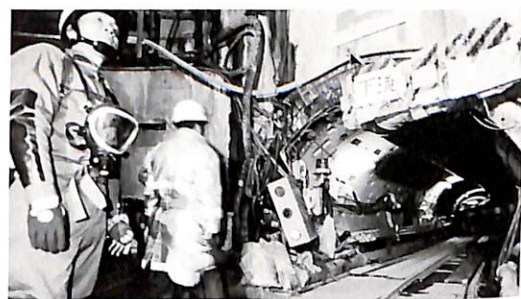
▲**韓国に32年ぶり文民政権(2月25日)**大統領選で、金泳三が金大中を破った。「安定」と「経済優先」が高い支持を得た。写真は前大統領・盧泰愚(右)と。

◀**ニューヨークで爆弾テロ(2月26日)**世界貿易センタービル地下駐車場で大爆発。死者7人、重軽傷者600人。イスラム原理主義者の犯行とされた。

◀**連合赤軍事件、20年ぶり決着(2月19日)**未決だった統一公判組3人に、最高裁が最後の判決。最高幹部・永田洋子(48)、坂口弘(46)の死刑が確定した。

▶**フィリピンでまた大噴火(2月2日)**2年前に大爆発したピナツボ火山に続き、今度はマヨン山。死亡・不明84人。危険地帯に住む貧しい農民が犠牲となった。

毎日新聞社

▶**NHKの「やらせ」発覚(2月2日)**ヒマラヤに取材した特番で、数々の虚偽・演出。国際取引が規制されているオオカミ(写真)まで、「病気」といつわり強引に輸入していた。

毎日新聞社

共同通信社

▲**水道工事でガス爆発(2月1日)**東京都江東区で深夜、地下坑道掘削中に4人が死亡、一人が重傷。全員、東北地方からの出稼ぎ者。天然ガスが噴出しやすい危険地域だった。

村山幸親/オリオン・プレス

平成5年2月

1(月)●東京の水道工事現場でガス爆発、四人死亡。
2(火)●前年秋放映のNHKスペシャル「奥ヒマラヤ 禁断の王国 ムスタン」で、「やらせ」判明。
3(水)●異常気象・巨大災害の続出で、世界の保険会社に深刻な影響と、グリーンピースが報告書。
4(木)●奈良県の橿原神宮で火災、重文の神楽殿焼失。
5(金)●大蔵省、平成四年の国際収支発表。経常黒字は前年比六一%増で初めて一〇〇〇億$突破。
6(土)●川崎市教委、指導要録の全面開示を決定。
7(日)●北陸地方中心に広域地震。輪島市で震度五。
8(月)●社会党の赤松書記長、三〇年後の原発全廃を前提に、既存原発を容認と表明。
9(火)●横浜市、日本で初めて、救急医療費を払えない外国人の医療費全額公費負担を決定。
10(水)●神戸地裁、「校門圧死事件」で元教諭に有罪。
11(木)●米大統領、日本の対米黒字削減を強硬に要求。
12(金)●文部省高校教育改革推進会議、高校に総合学科新設・単位制導入など、改革案を提言。
13(土)●証券の大手・準大手一六社、三月期決算で、全社が赤字計上と判明。
14(日)●スキー場過密、すでに九人が事故死と新聞に。
15(月)●平成四年の広告費は五兆四六一一億円、二七年ぶりに前年割れ、と電通調査。
16(火)●ガリ国連事務総長、モザンビークへのPKO派遣を日本に要請(5月11日、先遣部隊出発)。
17(水)●衆院予算委、竹下元首相と小沢元自民党幹事長を、佐川急便事件・皇民党事件で証人喚問。
18(木)●ノーベル平和賞受賞者らが、スー・チー女史の釈放を求めて公開書簡を発表。
19(金)●連合赤軍の永田洋子・坂口弘被告の死刑確定。
20(土)●昭和シェル石油が、ドル先物取引で一二五〇億円の損失を出していたことが判明。
21(日)●コンビニの出版物売り上げが急増、中小書店の脅威になっている、と新聞に。
22(月)●文部省、業者テスト即時禁止を全国に通知。
23(火)●日産自動車、座間工場閉鎖を発表。
24(水)●公取委、「シール談合」で印刷四社を告発。
25(木)●韓国で金泳三が大統領に就任。
26(金)●社・公・民、竹下元首相の議員辞職勧告決議案を提出。佐川急便事件の道義的責任追及。
●作曲家の故・服部良一さんに国民栄誉賞。
27(土)●ロンドンでG7。日本に内需拡大を要求。
28(日)●米軍輸送機が、ボスニア・ヘルツェゴビナへの物資投下作戦を開始。

▲**金丸信、逮捕(3月6日)**ゼネコンなどから巨額の闇献金を受け取り、3年間に10億円以上の脱税をしていた疑い。写真は7月、初公判に出廷する元「政界のドン」。

共同通信社

▶**三池CO中毒訴訟、苦い勝訴(3月26日)**昭和38年の炭塵爆発事故の犠牲者36人に対し、福岡地裁は補償額1億円余の判決。「被災者の会」は低すぎると反発した。

共同通信社

読売新聞社

▲**「のぞみ」博多へ(3月18日)**前年、東海道新幹線にデビューした新型車が距離を延長。最高速度270キロで、東京―博多間を従来より48分も短縮した。

▼**紀宮、日本舞踊を披露(3月28日)**東京・国立劇場で、清元「子守」にあわせ娘役を熱演。「さーや」も、もう23歳。皇太子の結婚が決まり、次は、の声も。

毎日新聞社

読売新聞社

▲**エイズ国際シンポにマジック・ジョンソン(3月25日)**東京開催の会合にHIV感染者でプロバスケットのスーパースターが登場、正しい理解と支援を訴えた。

▶**中国国家主席に江沢民就任(3月27日)**全国人民代表大会で選ばれ、共産党総書記の江が党・軍・国家を掌握。鄧小平の「改革・開放」路線が踏襲された。

AP/WWP

平成5年3月

1(月)●環境庁、公用車に初めて電気自動車を導入。
2(火)●元プロ野球選手・江夏豊、覚醒剤所持で逮捕(7月、実刑判決)。
3(水)●日本のバブル崩壊で、ティファニーの売り上げが落ちこんでいる、とニューヨーク発。
4(木)●アルバイトの時給、大学生は一〇二〇円で伸び悩み、女子高生はダウンとリクルート調査。
5(金)●東京高裁、シベリア抑留者への国の補償認めず。
6(土)●東京地検、金丸前自民党副総裁を脱税で逮捕。
7(日)●山花社会党委員長、日韓条約承認を表明。
8(月)●朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の喜劇ビデオが、日本で初めて発売される。
9(火)●道交法改正。無違反なら免許五年間有効など。
10(水)●小学生の八割が、茄子や大根の本来の味を知らない、と新聞に。
11(木)●厚生省、食品添加物の発癌性試験を義務化する方針を決める。
12(金)●北朝鮮、核拡散防止条約脱退を表明。
13(土)●韓国、従軍慰安婦問題で日本に補償求めず。
14(日)●北米東部で史上最大級の嵐、一六八人死亡。
15(月)●中国で第八期全国人民代表大会開催(~31日。人民公社廃止・市場経済導入など憲法修正)。
16(火)●「葬送の自由をすすめる会」が初の自然葬。
17(水)●中央労働基準審議会、時短一年間猶予の答申。
18(木)●「のぞみ」が山陽新幹線への乗り入れ開始。
19(金)●カナダで、タバコの箱に「喫煙で死ぬことがある」との表示義務づけへ。
20(土)●福島空港、開港。東北六県に空港がそろう。
21(日)●「夫は仕事、妻は家庭」が六割、と総理府調査。
22(月)●大阪地裁、親に無断で使用した子どものダイヤルQ²料金は親に支払い義務なしと判決。
23(火)●那覇地裁、「日の丸」は事実上の国旗と初の司法判断。
24(水)●南ア、過去に原爆六個を製造したがすでに解体したと発表。
25(木)●熊本地裁、水俣病第三次訴訟第二陣判決で、国・県・チッソの責任を再び認定。
26(金)●地価公示価格発表。二年連続の下落。
27(土)●中国全人代、国家主席に江沢民を選出。
28(日)●東京・両国に「江戸東京博物館」が開館。
29(月)●平成生まれが明治生まれを抜いたと総務庁。
30(火)●富山医薬大、初の漢方医学講座設置を決定。
31(水)●日本建設業団体連、闇献金全廃を申し合わせ。

毎日新聞社

▲天皇・皇后、歴史的な沖縄訪問（4月23日）那覇空港に到着後、まっすぐ国立沖縄戦没者墓苑へ（写真）。平和祈念像などを訪ねた。お二人は皇太子時代に訪沖しているが、歴代天皇では初。

読売新聞社

▲カンボジアPKO、涙の帰国（4月8日）是非の論議が沸騰する中で派遣された施設大隊と停戦監視要員608人が、約半年間の任務を終え故国へ。前日には、第2次隊が不穏な任地に向かっていた。

▼「密航ビジネス」摘発（4月2日）未明、海上保安庁が東シナ海で不審な漁船を発見。日本の暴力団が、中国の「蛇頭」と結託して中国人145人の密航をたくらんだものだった。

読売新聞社

「FRIDAY」/小檜山毅彦

▶山崎浩子、統一教会脱会宣言（4月21日）前年夏、合同結婚式に出席した元五輪選手(33)が、1ヵ月半ぶりに姿を現し記者会見。教会批判勢力からの「拉致疑惑」を否定した。

読売新聞社

▲過激派、国宝・重文焼く（4月25日）天皇訪沖反対を掲げ、皇族が門跡だった京都の仁和寺、三千院、青蓮院などに放火。現場から、時限発火装置が見つかった。

朝日新聞社

▶ロシアで核事故（4月6日）西シベリアの閉鎖都市「トムスク7」の再処理工場で、ウラン廃液の貯蔵容器が爆発。写真は、汚染除去作業員。

平成5年4月

1（木）●旧ソ連の、北極海や日本海への核廃棄物大量投棄が、グリーンピースの調査で判明。
2（金）●東シナ海で、漁船で密入国しようとした中国人一四五人と日本人乗組員四人を逮捕。
3（土）●カワセミ・コゲラなどが都心に進出、生態も変化している、と新聞に。
4（日）●全国で水道水源の汚染深刻、と新聞に。
5（月）●ロシア中部でシベリア抑留者三人の生存確認。
6（火）●ロシアの軍事閉鎖都市「トムスク7」で核事故。
7（水）●政府、相続税の物納を認める方針を固める。
8（木）●カンボジアで、国連ボランティアとして活動中の中田厚仁さんが殺害される。
9（金）●北朝鮮、金正日を国防委員会委員長に選出。
10（土）●公取委が、農協などを米取引の独禁法違反の疑いで調査開始、と新聞に。
11（日）●関西で、銀行の両替機を通過する精巧なニセ一万円札が出まわる（25日までに五〇六枚）。
12（月）●NATO、ボスニア・ヘルツェゴビナ上空の軍事哨戒飛行を開始。
13（火）●政府、過去最大、一三兆円の景気刺激策発表。
14（水）●東京で、対ロ支援先進七ヵ国蔵相・外相会議開催。日本は一八億ドルの追加援助。
15（木）●労働省、内定取り消しの企業一〇〇社を公表。
16（金）●民間政治臨調、小選挙区比例代表連用制提言。
17（土）●安保理、ユーゴ経済制裁強化決議を採択。
18（日）●日本エアシステム機、花巻空港で着陸に失敗して炎上。二六人負傷。
19（月）●米・テキサス州で、武装した宗教団体本部をFBIが急襲、八六人が集団自殺などで死亡。
20（火）●『サザエさん』出版の姉妹社が廃業。
21（水）●神戸市の王子動物園で、孫悟空のモデルとされる金絲猴が出産。中国以外での初繁殖。
22（木）●日本女性の母乳含有ダイオキシン、欧州基準の一〇～二〇〇倍と九大医療短大調査で判明。
23（金）●天皇・皇后、歴代天皇初の沖縄訪問。
24（土）●横浜市、時間短縮に立式会議導入、と新聞に。
25（日）●卓球の松下浩二、初のプロ認定。
26（月）●コンピュータの将棋ソフトが強くなり、現在アマチュア二段格、と新聞に。
27（火）●厚生省、新三種混合ワクチン予防接種を中止。
28（水）●雲仙普賢岳で最大規模の土石流、五月にかけ四九三棟に被害。
29（木）●秋田県警、違反もみ消し料恐喝の警察官逮捕。
30（金）●総理府、UNTACで一〇人が辞退と発表。

証言・あの日この日

井上ひさし(58)

10月28日（木） 〈筒井さんの断筆宣言を聞き、これから新作が読めなくなるのではないかと不安に思いながら、そして面倒なことに係わりたくないからコトバの置き換えで避けて通ろうという小手先の制度にペンとインク壷とを投げつけたその勇気に感じ入りながら、筆者はおのれの差別語についての考えを点検してみた〉（井上ひさし『ニホン語日記』）

この頃、「差別語狩り」の運動が活発化、とうとう筒井康隆の小説の中の「てんかん」という言葉にまでおよび、それに怒った筒井は、ゆき過ぎた「差別語狩り」に抗議して「断筆宣言」をする。これを機に作家・井上ひさしも「差別語とは何か」を考える。井上の立場は、差別語は避けるべきだが、しかし表現の自由も大事だという、きわめて〈微温的〉なものだった。　（山崎行太郎）

共同通信社

▲尼崎市議会が自主解散（5月25日）前年の「カラ出張」発覚で混迷する市議会が、学識経験者からなる「議員行政視察等実態調査委員会」の勧告を受け入れた。翌月、出直し選挙を行った。

共同通信社

▶伊丹十三作品の映写幕切り裂く（5月30日）新作「大病人」を上映中の東京の映画館で、前作「ミンボーの女」で日の丸を冒瀆したとして、右翼団体の男が凶行。

▶「ゴジラ」プロ初ホームラン（5月2日）巨人の大物新人・松井秀喜(18)が豪快なひと振り。ヤクルト・野村監督の、「内角直球を試せ」の指示をあざわらうように、打球は右翼席に飛びこんだ。

読売新聞社

◀カンボジアで初の総選挙（5月）UNTACが見守る中、王党派が1位となり、拮抗する人民党と連立政権を樹立。ポル・ポト派は反政府ゲリラに転落した。

東京新聞社

▲首都高に紙ロール散乱（5月9日）5号線護国寺ランプ付近で、大型トレーラーが中央分離帯に接触し、荷崩れ。乗用車7台が次々と衝突、4人が死亡した。

読売新聞社

平成5年5月

1（土）●スリランカで爆弾テロ、大統領ら二四人死亡。
2（日）●吹雪の月山スキー場で八人が遭難、四人死亡。
3（月）●不況で管理職の家出が増加、と警視庁調査。
4（火）●カンボジアで、PKO派遣の文民警察官らが襲撃され、高田晴行さんが死亡。
5（水）●名古屋市で、パチンコ景品交換用の現金一億三七〇〇万円が、三人組の男に強奪される。
6（木）●山梨県忍野村のリゾートマンションで、一家七人が一酸化炭素中毒で死亡。
7（金）●癌による死亡者中、癌告知を受けた患者は二割と厚生省調査。
8（土）●横浜市に「八景島シーパラダイス」が誕生。
9（日）●東京入国管理局、代々木公園で不法滞在外国人の一斉手入れ、一〇二人を収容。
10（月）●旧ソ連が日本海に毒ガス大量投棄、と新聞に。
11（火）●家電製品に「簡単操作革命」。多機能・重装備からワンボタン式に変身中、と新聞に。
12（水）●男性用香水を女性が使うことが流行と新聞に。
13（木）●米国、SDI（戦略防衛構想）中止を発表。
14（金）●川崎市、市長と市会議長の交際費を全面公開。
15（土）●サッカー・Jリーグ、開幕。
16（日）●長崎県対馬で、ヤマネコ保護の初のシンポ。
17（月）●平成四年度の一億円以上の所得税納税者は、前年の三分の一と判明。
18（火）●米・インテル社、パソコン用新型マイクロプロセッサ「ペンティアム」を発売。
19（水）●ロサンゼルスで、女性上司による男性社員へのセクハラに一〇〇万ドル賠償の判決。
20（木）●高体連、朝鮮高級学校の高校総体参加を承認。
21（金）●米長邦雄九段（四九）、将棋名人に。史上最年長。
22（土）●大蔵省・日銀、釜石信金の解体・清算を決定。
23（日）●米国の服部剛丈君射殺事件で、郡裁判所陪審員が正当防衛認め無罪の評決。
24（月）●運輸省が、成田空港新滑走路計画の白紙撤回と話し合い解決を了承、力の対決終わる。
25（火）●カナダ、イヌイットの自治州設置を決定。
26（水）●独、難民締め出しへ憲法改正。
27（木）●米女性にセクハラの長野県南箕輪村助役辞職。
28（金）●雑誌「an・an」、五週連続で「セックスレス」を特集、話題に。
29（土）●日本文学振興会、「松本清張賞」を新設。
30（日）●伊丹十三監督の「大病人」上映中のスクリーンを、右翼の男が切り裂く。
31（月）●電力一〇社の円高差益が一兆円強、と新聞に。

「現場」を歩く 二風谷

「国際先住民年」のフォーラムを開催した聖地はダムの底に沈められた！

山本徹美

▲昭和47年に開館した「二風谷アイヌ文化資料館」では、かつての集落と生活民具を再現、展示。 但馬一憲

平成五年八月一九日、北海道日高支庁平取町二風谷で「二風谷フォーラム'93」が開幕。世界一三カ国から二七の先住民族三六人がゲストとして招かれ、四日間にわたって討論会と各民族の祭礼や伝統芸能、コンサートなどが開催された。

このフォーラムを企画立案した萱野茂氏（当時・六七歳＝前参議院議員）が振り返る。

「前年一一月、わが家へカナダから知人たちが訪ねてきて雑談しているうち、アイヌのことをもっと世界中の人に知ってもらった方がいい、そのために何かやろう、と話がまとまった」

その場に居合わせた貝沢耕一氏（当時・四七歳＝同フォーラム事務局長）は平成五年三月、米国やカナダを歴訪、各地の先住民族に参加を呼びかけた。

「国連が『国際先住民年』と制定し、タイミングにも恵まれました。七〇〇を超す個人・団体から総額約一二〇〇万円の資金援助があり、それは国や道からの補助金を上回りました」（貝沢氏）

八月二〇日には町内を流れる沙流川で萱野氏が古式にのっとり、安全と豊漁を祈願する儀式「チプサンケ」（舟おろし）を行った。が、そこは建設中のダムが完成すると埋没する運命にあり、平成元年に所有地を強制収用された萱野・貝沢両氏が違法性を主張、提訴中だった。

フォーラムには国内外から延べ約四〇〇〇人が参加、国際先住民年の行事としては国内最大規模となったのである。

真のフォーラムはこれから

二風谷を訪ねてみる。町立二風谷アイヌ文化博物館の西側には「にぶたに湖」ができていた。平成一〇年、二風谷ダムが完成したためだ。萱野氏が語る。

「ダム訴訟ではアイヌの先住性が認められ、実質勝訴ではあったけど、工事は止められなかった。フォーラムなどが呼び水となって、平成九年七月の『アイヌ新法』施行に結びついたとも言えるでしょう。が、年間七億円の予算が有効活用されているかどうかは疑問です。民族の存在証明は言葉。アイヌ語教育をもっと充実させる必要があります」

貝沢氏が憤慨する。

「ダムはアイヌ民族への侵略の象徴、と私は受け取っている。アイヌの聖地がこのように踏みにじられた事実を子孫に語り継ぎ、反省材料にします。私たちにとってダムは原爆ドームと同じ存在です」

聖地とは、アイヌ民族にしてみれば「カムイ（神）の声を聞き、対話ができる限られた場所」（萱野氏）であり、よりによってそこを水没させたところに行政への不信と怒りがある。先住民族との「討論会」はどれだけ進んだのだろうか。

「にぶたに湖」のほとりに立つ。洪水の影響か水は濁り、しんと静まりかえっている。哀しいような、怖いような神々の沈黙を私は感じるのだった。

共同通信社

▲平成5年9月15日、札幌市豊平川河川敷で各国先住民が参加、アイヌ民族の主食だった鮭を迎える儀式が行われた。国連の国際先住民年を記念しての交流行事。

日録 20世紀1993 6月

▲泥沼のソマリア紛争（6月）国連平和維持軍の展開で飢餓は回復したが、武装勢力・アイディド派との銃撃戦で双方に死傷者続出。写真は20日再開された、難民への食糧配給。

ロイター／サンテレフォト

日刊スポーツ

▲千葉すず、連日の日本新（6月12日）水泳日本選手権100メートル自由形で55秒56。前日、400メートルでも新記録。五輪後の不振を払拭して、にっこり。

読売新聞社

▶「秦代のロマン」再現（6月30日）英国人地理学者らが、2000年以上も昔の竹製いかだを復元、香港―米西海岸間征服をめざした。写真は足摺岬近く。11月、大しけのため目的地目前で断念した。

日刊スポーツ

▼百恵さん（34）、危機一髪（6月22日）東京・国立市の自宅に、国税庁職員を名乗る男が侵入したが、家を飛び出し無事だった。写真は急遽帰宅した夫の俳優・三浦友和（41）。

読売新聞社

▲自民党分裂（6月23日）野党の内閣不信任案に、自民党の羽田派が同調。彼らは衆参44議員で新生党を旗揚げ（写真）。自社中心の「55年体制」が崩壊した。

共同通信社

▶「ストリート・バスケット」が上陸（6月）アメリカの流行が日本にも。二人集まれば楽しめる手軽さが受けた。写真のような本格的な施設も登場。

平成5年6月

- 1（火）●鉄鋼大手五社の来春新卒採用計画まとまる。新日鉄は一割減、川鉄・神鋼は五割減。
- 2（水）●労働基準法改正案成立、週四〇時間労働制へ。
- 3（木）●全国市長会、ゴミ有料化提言を満場一致承認。
- 4（金）●安保理、ボスニア・ヘルツェゴビナでNATO軍などの武力行使容認を決議。
- 5（土）●鳥取市の産婦人科医院から誘拐された新生児を三六日ぶり保護。犯人の刑務官夫婦を逮捕。
- 6（日）●モスクワ・赤の広場で、山本寛斎ショー。
- 7（月）●ボクシングのジョージ・フォアマンが引退。
- 8（火）●中国・西安市のホテルで、老齢の日本人旅行客三人が強盗に襲われ殺害される。
- 9（水）●皇太子と小和田雅子さんが結婚。
- 10（木）●公取委、大手エステの「エルセーヌ」に、業界初の不当表示排除命令。
- 11（金）●北朝鮮の中距離弾道ミサイル「ノドン1号」の日本海向け発射が判明。
- 12（土）●中国残留元日本兵・石田東四郎さんが、五四年ぶりに帰国。
- 13（日）●カナダで、初の女性首相が誕生。
- 14（月）●国会議員の資産初公開。平均八八六〇万円。
- 15（火）●東京外為市場で、円相場が一時一〇四円台に。
- 16（水）●新東京国際空港公団、成田空港用地の強制収用申請を二四年ぶりに取り下げ。
- 17（木）●運輸技術審議会、車検整備の簡素化を答申。
- 18（金）●衆院で宮沢内閣不信任案可決。衆院解散。
- 19（土）●平成三年度の国民医療費は二二兆円と新聞に。
- 20（日）●米誌の長者番付で、西武鉄道の堤義明会長が世界一。資産総額九二億ドル。
- 21（月）●定期預貯金の金利、完全自由化。
- 22（火）●安保理、内戦続くルワンダへの武器流入監視のため、PKO派遣を決定。
- 23（水）●東京高裁、非嫡出子の相続格差を認めた民法規定は違憲、と初の判示。
- 24（木）●新日鉄、花形商品・シームレスパイプから撤退、円高やアジア諸国の進出ひびく、と新聞に。
- 25（金）●中国・河南省で、恐竜の卵の化石数千個を発見。
- 26（土）●普賢岳で最大規模の火砕流、規制区域越える。
- 27（日）●経団連、自民党への献金は減らさぬと新聞に。
- 28（月）●ギリシャが不法滞在のアルバニア人八五〇〇人を追放。
- 29（火）●東京地検、仙台市長・ゼネコン首脳などを贈収賄容疑で逮捕。ゼネコン汚職の解明本格化。
- 30（水）●産油国・中国が需要増で輸入国に、と新聞に。

ベストセラー

大人のための恋のメルヘン『マディソン郡の橋』刊行！

この年三月に翻訳出版された恋愛小説『マディソン郡の橋』は、アメリカにおけると同様、日本でもベストセラーになった。主人公は、世界的なグラフ雑誌「ナショナル・ジオグラフィック」に仕事を依頼されるほどの優れたカメラマン、ロバート・キンケイドと、彼が撮影で立ち寄った農家の主婦、フランチェスカ。二人が出会ったのは、男五二歳、女四五歳の時で、わずか数日間の出来事が後の二人の人生に深く根をおろすことになった。現代の組織化された社会の中で失われつつある感覚を、心地よく蘇らせる物語だった。

この年の出版界を席巻した感のある大ベストセラーに『磯野家の謎』がある。戦後の国民的人気マンガ「サザエさん」をマニアックに読みこみ、磯野家つまりサザエさん一家を〝現実の家族〟として浮かび上がらせたもので、前年末に発売されて以来、評判が評判を呼んで、この年ミリオンセラーに大化けした。フィクションをリアルな世界として楽しむこの種の本は、これ以降、続々刊行され、ブームを巻き起こした。

やはり前年に発売されていた『清貧の思想』も、バブル崩壊後の時代を如実に反映し、この年にはベストセラーに名をつらねた。筆者はドイツ文学者の中野孝次で、外国人の目には、物質文明を謳歌する日本人だけが際立って見えることを懸念して、日本のもうひとつの伝統を説いた。それは「現世での生存は能うかぎり簡素にして心を風雅の世界に遊ばせることを、人間としての最も高尚な生き方とする文化の伝統」（まえがき）で、本阿弥光悦、鴨長明、良寛などの生き方や思想を引き合いに出しながら論じた。

●平成５年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	「人間革命（12）」（池田大作／聖教新聞社）
2位	「磯野家の謎（正・続）」（東京サザエさん学会編／飛鳥新社）
3位	「マディソン郡の橋」（ロバート・J・ウォラー／文藝春秋）
4位	「たいのおかしら」（さくらももこ／集英社）
5位	「私は別人（上・下）」（シドニィ・シェルダン／アカデミー出版）
6位	「ドラゴンクエストV　公式ガイドブック（上・下）」（エニックス編／エニックス）
7位	「ファイナルファンタジーV（基礎知識編・戦闘解析編・冒険ガイドブック・完全攻略編）」（スクウェア監修／NTT出版）
8位	「清貧の思想」（中野孝次／草思社）
9位	「日本改造計画」（小沢一郎／講談社）
10位	「生きるヒント」（五木寛之／文化出版局）

全国出版協会出版科学研究所

▲「磯野家の謎」（971円）

▲「マディソン郡の橋」（1359円）

▲「清貧の思想」（1456円）

スターと名場面

時代をとらえた監督たち 北野武、崔洋一、相米慎二

この年、気鋭の監督が、それぞれ時代の雰囲気を鋭くとらえた作品を撮って注目された。北野武監督の「ソナチネ」と崔洋一監督の「月はどっちに出ている」、相米慎二監督の「お引越し」で、いずれも高く評価された。

「ソナチネ」は、「凶暴な男」三部作の最後の作品にあたるバイオレンス映画。舞台を沖縄に移して、その圧倒的な大自然と暴力という対比が、異様に美しい映像を作りだした。

また「月はどっちに出ている」は、在日コリアンのタクシードライバーを主人公に、フィリピンから出稼ぎに来ている女性との恋を織りまぜながら、バブル経済とともに〝国際都市〟化した東京の実態をユーモラスに描き出した。

「お引越し」は、両親の別居にともなって激しく揺れ動く思春期の少女を、少女の側にカメラを据えた映像でたくみに描き出した。少女役の田畑智子の好演もあって、家族コミュニティが揺らぐ時代における優れた思春期映画になった。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。

「許されざる者」（クリント・イーストウッド）「ザ・プレイヤー」（ティム・ロビンス）「クライング・ゲーム」（スティーブン・レイ）

松竹提供

▲「ソナチネ」で、主役の暴力団幹部をクールに演じたビートたけし。

▶「月はどっちに出ている」で主役を演じた岸谷五朗（右）と、フィリピン女性役のルビー・モレノ（左）。

シネカノン提供

▼「お引越し」で、思春期の少女を好演した田畑智子（左）。右は桜田淳子。

読売テレビ放送提供

モノ語り'93

ブーム、ブームの大ブレイク商品！ポケベル「パルフィー」、「ナタデココ」「おたっくすKX-PW3TA」

ナタデココ入り

◀**大人気のデザートが手軽に**
この頃大流行した「ナタデココ」の、初の国産品が、この年フジッコから発売され話題を呼んだ。ナタデココは、もともとフィリピンなど東南アジア原産のデザートだったが、ファミリーレストランのメニューに登場して以来、爆発的な人気食品となった。フジッコでは、輸入では間に合わないため国内生産に踏み切ったが、それでも生産が追いつかない人気ぶりだった。価格は税別で330円。

▼**超人気キャラクターグッズ**
テレビアニメで、女児を中心に圧倒的な人気を誇った「セーラームーンR」のキャラクターグッズが、バンダイから発売され、この年、爆発的に売れた。宇宙から来た5人の美少女戦士が、普段は中学にかようという設定で、関連グッズの中でも人気があったのは、ステッキ「キューティムーンロッド」と、着せ替え人形「セーラーチーム」（写真）。価格はそれぞれ税別で3300円、2980円だった。

◀**不況で売れる健康飲料**　不況の中で高まる健康意識を反映し、キャロット（にんじん）飲料が、この年、売れ行きを伸ばし注目を集めた。前年にカゴメが発売した「キャロット100」シリーズは、にんじん100パーセントの「キャロット100」（130円）のほか、「キャロット＆アップル100」「キャロット＆フルーツ100」（各107円）といったラインナップで、中でも、この年「キャロット100」はその出荷量を400万ケースの大台に乗せるなど、大ブレイクした。

◀**低価格ファックスが発売された**　この年の12月に松下電器産業から発売された「おたっくすKX-PW3TA」は、画期的な低価格を実現、家庭用ファックスの先駆け商品となった。平成3年に発売された「おたっくす」シリーズが、この年2月に10万円を割り、さらに12月に5万8000円（税別）となったもの。留守番電話、コピー機能つきだった。

▼**女子高生がポケベルで会話**　もっぱらビジネス用だったポケットベルが、この年、その市場を女子高生にまで広げた。9月にNTT移動通信網は保証金を大幅に引き下げ、加入者を急増させたのである。写真の「パルフィー」は超小型のボディに12桁までのメッセージを6件記憶できる性能を持つ人気機種。保証金は1万円、月額の使用料は、2600円だった。

◀**Jリーグブーム広がる**　この年発足したJリーグの「Jリーグオフィシャルグッズ」が、ソニー・クリエイティブプロダクツから発売され、サッカーファンの定番商品となった。各クラブのキャラクターやロゴが入ったTシャツ、トレーナーや文具など、さまざまな商品が売り出されたが、特に人気のあったのが、写真の各クラブのペナントで、価格は税別で2000円だった。

▶**アイロンなしでシャツが着られる**　洗濯をしても形が崩れない、形状記憶シャツ「ミラクルケア」が東洋紡から発売された。縫製後、ホルマリンなどの数種類のガスで処理し、分子レベルで歪みを起こさなくしたもの。何度洗濯してもしわになりにくく、形崩れもしない〝ノーアイロンシャツ〟で、一人暮らしのサラリーマンに大好評。発売後わずか5ヵ月で100万枚を超える、大ヒット商品となった。価格は税別5000〜8000円。

▶平成四年九月八日、UNTACの研修を終えて、カンボジアの首都・プノンペンからコンポントム州へ旅だつ日の中田厚仁。

人物クローズアップ

中田厚仁（二五）

「国連で、仕事をしたい！」青年の夢を打ち砕いた銃撃

▶カンボジアのコンポントム州で、UNTACの制憲議会選挙の準備で大忙しだった頃のスナップ。

中田武仁提供（3点とも）

平成五年四月八日の午前七時半（日本時間同九時半）頃、カンボジア中央部のコンポントム州で、国連カンボジア暫定行政機構（UNTAC）によって行われる総選挙の選挙監視にあたっていた日本人国連ボランティア・中田厚仁（二五）の乗った車が、ポル・ポト派と見られる（後にポル・ポト派ではないことが判明）武装集団の襲撃を受けた。

中田は、この日開かれる会議に出席するため、担当のプラサトサンボ郡から会場のある州都のコンポントム市まで、通訳のレイ・ソクピープとともに車で移動する途中だった。

中田たちの乗った車が、現場近くにさしかかった時である。前方に制止せよの合図が見えた。車はそれを無視し、かまわずその場を突っ切ろうとした。背後から銃声が響き、銃弾がレイの背中に命中。車が停止すると、彼らは中田を車から引きずり出し、至近距離から銃撃した。背後から左胸に二発、もう一発は後頭部から左目を貫通した。即死だったという。通訳のレイは重傷で、病院で手術を受けたが、その後死亡する。

このコンポントム州にはポル・ポト派の拠点があり、カンボジアの中でも特に危険な地域のひとつだった。事件後、これほど危険な地域に派遣したUNTACに対し、多くの非難の声があがった。しかし、それは中田みずからの希望だった。そういう地域だからこそ行ってみたい、彼は、そう言っていたという。

中田厚仁は、昭和四三年一月一〇日、大阪市に生まれた。父・武仁は商社マンで、厚仁が八歳の時、ポーランドのワルシャワへ転勤になった。家族とどものワルシャワ生活だったが、ここでの三年間が、中田の短い人生に大きな影響を与えることになった。当時、ワルシャワにはまだ日本人学校がなく（一年半後に開校）、中田はアメリカンスクールに入学した。それは彼にとって素晴らしい学校だった。二十数ヵ国の子どもたちが、受験などにまどわされることなく、のびのびと学び、教師も一人一人の個性と能力を認め、それを最も重要なものとして尊重する。中田は、教室で最も活発な少年だった。

そして、昭和五二年、アメリカンスクール四年生の九歳の時、オシフィエンチム（アウシュビッツ）のユダヤ人強制収容所を見学した時から、中田は戦争がもたらす悲劇を解決するため、自分に何ができるかを考えるようになった。

国連の募集するカンボジアの国連ボランティアに応募したのは、前年の平成四年二月、大阪大学法学部の卒業を目前に控えた時だった。すでに外資系マネジメント・コンサルタント会社への就職も決まっていた。五月末に行われた試験に合格し、カンボジアに赴任したのは、同年の七月七日。それは彼の夢の実現への第一歩だった。

「国連で、仕事をしたい。できれば大使になりたい」というのが、ポーランドで描いた中田の夢だったのである。

「彼のボランティアに対する考え方は、子どもの頃から自分で育んできたものです。人間としてこの世に生を受けたものの社会行動のひとつという考え方で、つまり、自分の命の使い道という考え方でした。そして彼は、どんな国の人とも対等の意識に基づいて行動したいと考えていました。国連で働きたいと思っていたのはそのためで、私自身、そういう彼から多くのものを学んでいるのです」

父・武仁氏の話である。

一人の青年の夢、それもとびっきり良質な夢が、あっけなく打ち砕かれる現実。しかしカンボジアが、中田が実現しようとした平和な国土という夢に、少しずつ近づこうとしているのは確かである。

▲父・武仁氏による募金で建てられた小学校。中田厚仁の名がつけられた。

決定的瞬間

「北海道南西沖地震」発生！ 震度六の烈震に大津波、火災 奥尻島、死者一七二人の惨状

◀平成5年7月12日の「北海道南西沖地震」で、奥尻島の青苗地区は、地震に加えて津波、さらに火災により、ほぼ壊滅状態となった。

朝日新聞社

北海道の南西部、江差町の北西約六〇キロ。美しく澄んだ紺碧の日本海に、こんもりとした緑におおわれた奥尻島がぽっかりと浮かんでいる。周囲八四キロ、面積一四三平方キロ。利尻島に次いで道内第二の広さを持つこの島は、一島で檜山支庁奥尻郡奥尻町を形成し、四七〇〇人あまりの人々が暮らしている。

平成五年七月一二日午後一〇時一七分。

この美しい島を、突然の激しい地震が襲った。震源は、奥尻島の北わずか六〇キロの地点だ。「北海道南西沖地震」と命名されたこの地震の規模は、関東大震災並みのマグニチュード七・八。奥尻島には地震計は設置されていないため記録はないが、その被害の様子から震度六の「烈震」であったと推定されている。

奥尻地区の崖地で起こった崩落はホテルを呑みこみ、宿泊客を含め二四人もの犠牲者を出したほか、各所で地割れや陥没、土砂崩れが発生し、多くの建物や田畑、道路に大きな被害が発生した。

「こんな大地震の後には、かならず津波がやって来る」

多くの島民は、一〇年前の「日本海中部地震」を思い出し、津波の来襲を直感して高台への避難を開始した。

しかし、すでに波高一〇メートルほどの大津波がそこまで押し寄せていた。最初の大津波が奥尻島を襲ったのは、地震発生からわずか三分後のことである。

沖の方から「ゴーッ」という地鳴りのような音が近づいてきて、海が真っ黒になり一〇メートル以上も盛り上がった。暗い闇の中で波頭だけが白く不気味に浮き立っていた。

「大きな波が左右からザブッとかぶったと思ったとたん、家が消えていた」

「外に飛び出したら、隣の家が波に押されて動き出した。後ろから、いくつもの屋根が津波に押されて迫ってきた」

住民たちは、さまざまな形で、突然の津波の来襲を目撃している。

被害が最も大きかったのは、同島最南端にある青苗地区だった。五〇四世帯一四〇一人の人々が暮らす、同町中心部の奥尻地区に次ぐ第二の大集落である。

津波の第一波は、まず西から集落の一部（青苗五区）を直撃した。この津波によって同地区のすべての家屋は完全に流失し、七〇人の死者を出す被害をもたらした。この津波は、さらに衰えを見せずに青苗岬の沖合を東に向かってまわりこみ、地震発生から七分後には、青苗の背後に位置する初松前地区を襲った。この集落でも津波はすべての家屋を押し流し、三二人の尊い命を奪っている。

さらに地震発生から一六分後、凶暴な海水の高まりは、今度は海岸線を西にそって進み、防波堤のつけ根部を越えて青苗の中心市街地になだれこんだ。

青苗地区に住んでいた漁協職員は、この時の様子を「高台へ避難する途中、三、四十メートル離れた先を突然、『ゴーッ』という音を立てて川のような濁流が一気に通りすぎました」と語っている。津波は濁流となって、多くの建物を南の沖合へと押し流したのである。

そして青苗地区では、すでに第三の災禍が始まっていた。火災である。

地震発生直後の午後一〇時三五分頃、青苗の集落の一角から火の手が上がった。当時の青苗の集落は、狭い岬に軒をつらねるように寄り添っていた。折からの東風にあおられて、津波の被害から逃れた家屋にまたたく間に燃え広がり、翌朝九時二〇分に鎮火するまで約三〇〇戸が焼失したのである。

こうして青苗地区は、島内最大の震災被害地となった。同地区で震災により失われた人命は一〇七人（行方不明二〇人）、全・半壊戸数は三四二戸にものぼった。奥尻島全島の震災被害は死者一七二人、行方不明者二六人、重軽傷者一四三人、被害総額は奥尻町の年間予算のほぼ一〇倍にあたる約六六四億円にも達した。

被災から五年目の平成一〇年三月一七日、奥尻町の三月定例町議会の最終日、深い悲しみの記憶を残しながらも、ようやく「完全復興」宣言が採択された。

この復興宣言には「瓦礫の町をさすらった島民を再起させたのは、全国から差しのべられた救援のあたたかい手のぬくもり」という一文がもりこまれ、多くの人命を失った冷厳な事実を、生きながらえた島民は後世に語り継ぐ責務があると、悲しい記憶の風化を戒めている。

読売新聞社

▲崩壊した自宅前で途方にくれる人たち。7月13日、青苗地区で。

美の出会い

「式年遷宮」に三度の挑戦！渡辺義雄が執念で撮影した伊勢神宮の〝伝統と普遍〟美

渡辺義雄

◀内宮正殿の北面。右側が西宝殿。左側が東宝殿。北面から見た時に、丸柱と萱の屋根の建築構成の美しさが明快に現れる。平成5年撮影。

伊勢神宮の第六一回式年遷宮の年にあたる平成五年、日本の建築写真の第一人者、渡辺義雄（八六）は、遷宮直前の建築群を撮影した。渡辺にとって今度の撮影は、昭和二八年の第五九回、昭和四八年の第六〇回式年遷宮に続く、三度目の撮影であった。

撮影は五月、七月、八月の三回行われた。渡辺は腰を痛めていて、移動に車椅子が必要だったこともあり、直弟子の写真家・山下圭二ら六人が撮影助手として参加した。その山下氏が語る、撮影の様子である。

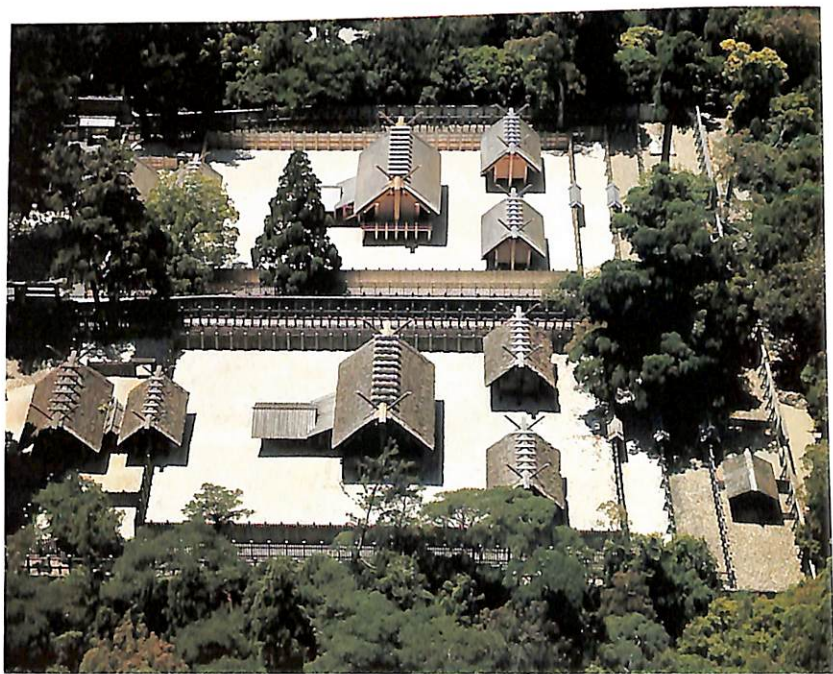
「神宮の撮影は、午前中は朝九時から一二時まで。一時間休んで、午後は一時から五時までと制限されています。毎朝、神職のお祓いを受け、白い長袖シャツ、白いトレーニングパンツ、白いズックという白装束に着替えます。まだ神様は遷宮していないとはいえ、神域に入るためです」

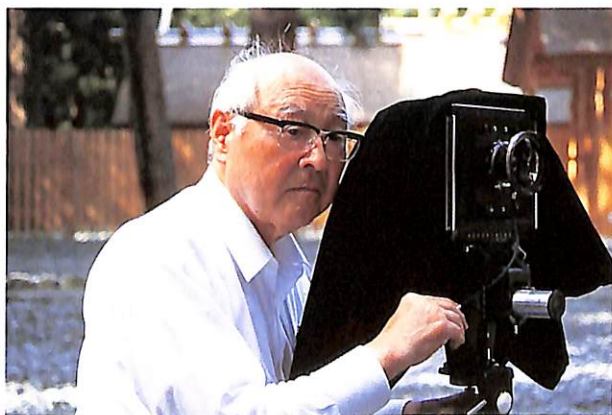
ほかの建物の場合とは違った趣の中での撮影は、夏の暑い日差しのもとで行われた。敷きつめられた白い石の反射で、一層暑く感じられたが、この反射光が太陽のあたらない軒下の陰を照らし出し、かえって写真には効果的だったと山下氏は続ける。

この成果は、過去二回の撮影分と合わせて、翌平成六年、『渡辺義雄の眼　伊勢神宮』として講談社から刊行された。

渡辺の伊勢神宮を対象とした作品群に注目している東京都写真美術館の専門調査員・丹羽晴美さんは、次のように語る。

「この仕事こそ、作家の写真に対する姿勢の集大成でしょう。渡辺は、時代も自分自身も変わらざるをえない四〇年という歳月の重みの中で、神宮を撮影し、時が経過しても変わらずに存在する伝統を、写真の中に封じこめ、普遍的な空間をとらえたのです」

伊勢神宮は皇室の御祖神・天照大神を祀る皇大神宮（内宮）と、衣食住をつかさどる豊受大神を祀る豊受大神宮（外宮）を中心に、摂社、末社を含めた総称である。内宮、外宮とも、ほぼ同じ社殿配置で、掘立柱に萱葺きの屋根という神明造り。古建築様式をよく伝えており、簡素な構造、素木の美しさは、日本建築を代表するものである。

▲内宮社殿の鳥瞰全景。遷宮後に古い社殿は解体される。この式年遷宮の年だけ、新旧の社殿が並ぶ光景が見られる。昭和48年撮影。　渡辺義雄

木村恵一

▲平成5年夏、内宮で撮影中の渡辺義雄。

ここでは二〇年に一度、式年遷宮と言って、新しい神殿を造り、大神にお遷りいただく日本最大の祭りが行われる。この式年遷宮は天武天皇によって定められた制度で、持統天皇四年（六九〇）に第一回目が行われた。以来、一三〇〇年間に、実に六一回の遷宮が行われてきたのである。

伊勢神宮を訪れる一般客は、内宮、外宮の御垣内に入ることはできない。その建築の全貌を見ることができないにもかかわらず、誰もが、伊勢神宮といえば素木の輝かしい建物を思い浮かべることができるのは、渡辺の写真によって広く知られているからである。

渡辺の伊勢神宮とのかかわりは、四〇年前にさかのぼる。第五九回式年遷宮が行われる前年の昭和二七年、渡辺は神宮に撮影願いを出したが、当初、許可はおりなかった。御垣内は神の坐すところで、一度も写真撮影をされたことがなく、神職からの反対が強かったからである。

「内部や神殿となった建物ではなく、遷宮前の神様のお入りになる前の、純粋に建物としての形を撮影させていただきたい」という渡辺の願いに、ようやく許可がおりた。

第一回目は、すべてモノクロームの撮影だった。国内に大型シートフィルムはなく、海外から入手したフィルムはホルダーにあわず、カミソリで切って入れるという作業を強いられたが、素木の美しさや建築の構造をみごとに写しとった。この時の作品は、今日もなお建築写真の名作として伝えられている。

それから四〇年たった平成五年の撮影は、カラー写真が主体である。三度にわたる渡辺の挑戦により、伊勢神宮の古建築の美しさは、家庭の茶の間まで、広く浸透することになった。

20世紀博物館

青森市森林博物館

青森市

「県木」檜葉の生命力と耐久力に粘り強い県民性を見る

桑原茂夫

▲2階にある展示室「青森とヒバ」のコーナー。写真中央付近に見えるのは、昭和初期に発見された檜葉の「埋没林」の一部。

この博物館の建物は、明治四一年に青森営林局庁舎として建てられたもの。檜葉材を主要な建材とした堂々たる木造建築で、昭和五三年、営林局の新築移転を機に、森をテーマとする博物館に生まれ変わることとなった。時あたかも急激な経済成長のただ中にあり、外国から輸入される、いわゆる「外材」が、日本列島における森の存在意義をあやうくさせてきた頃である。それで、この博物館は、日本列島の森を見つめ直すのにかっこうの施設ともなった。

さて博物館一階には、森と人とのかかわりを総合的に見る展示室があり、日本列島の森を構成しているいろいろな木の、樹皮とタテ・ヨコの断面を見せる「材鑑標本」などが展示されている。

「材鑑標本」としては、建築材に用いられる杉や檜、家具材に使われる橅や黄蘗、器具材に活用される朴や橡など合計三〇種類が並べられている。工芸品向きの白い木肌や、家具向きの色黒でがっちりしたタイプの木肌など、比較しながら見られるのだが、木を見比べる機会などめったにないから、刺激的でさえある。

▼「雪とスキー」のコーナー。立てかけてある板は明治・大正時代のもの。板の右に見えるのは冬の八甲田山を初めて単独横断した竹越恵蔵の装備。

そして二階に上がると、今度は「青森とヒバ」と題する展示室で、県木でもある檜葉と徹底的につきあうことになる。

まず香りである。廊下からこの展示室に一歩足を踏み入れたとたん、強い木の芳香に包まれる。これは「ヒノキチオール」と呼ばれるフェノール性の成分の香りで、檜葉特有のものだ。この「ヒノキチオール」は有害物質から檜葉を守る強い防御力を持っており、木材になってからも、シロアリなどの害虫やカビを寄せつけず、檜葉材に抜群の耐久力をもたらしている。森の中で生きてきた年数と同じぐらい長い寿命を保つと言われているほど。樹齢三〇〇年の檜葉で建てた建物は、以降三〇〇年間もつというわけだ。

▼温か味のある木造建築の前に広がる庭には、「リギダマツ」など、105種の木が植えられている。

この「ヒノキチオール」に加え、檜葉を頑丈な木にしている要因として、じっくり時間をかけての成長があげられる。幼木の時に太陽と大地から栄養をたっぷり摂り、十分基礎を固めて成長するのだ。

博物館でガイド役をつとめる〝森林インストラクター〟の工藤悦郎さんが、太い檜葉の断面で黒っぽく見える部分を小指の先で示し、その小指の太さに育つまでに六〇年かかるのだと、教えてくれた。そのとき木の丈はまだほんの一メートルたらず。そこから先は年に数十センチずつ延びていくというが、それでも家屋の柱として使えるようになるまでに数百年かかる。頑健なわけである。

工藤さんは「この地方では、総檜葉造りの家を建てることが、一家の主の夢だったのですよ」と言う。その夢は、人が大自然とかかわってきた長い経験の中で育まれてきたのだ。今もそれが簡単には崩れない夢であることを、この博物館は静かに主張しているようでもあった。

●青森市森林博物館
青森県青森市柳川二—四—三七
☎〇一七七—六六—七八〇〇
JR青森駅西口から徒歩一〇分。
開館時間＝九時～一六時半
休館日＝月曜日、祝日、月末日、年末年始
入館料＝一般二四〇円

▲青森営林局時代の局長室。会議用の大きなテーブルには高級品だったベニヤが張ってある。この部屋は、映画「八甲田山」で司令官室として使用された。

開幕試合のTV視聴率は32.4パーセント
関連グッズの年間売り上げも1200億円
超人気、Jリーグ開幕！

◀5月15日、東京・国立競技場でのJリーグ開幕戦、対ヴェルディ戦で熱狂的な声援を送るマリノスのサポーター。顔にペイントをした人も。

毎日新聞社

平成五年五月一五日、東京・国立競技場に五万九六二六人の大観衆を集めてJリーグ（日本プロサッカーリーグ）がスタートした。日本初のプロサッカー試合となった記念すべき開幕戦は、ヴェルディ川崎と横浜マリノスの間で行われ、二対一で横浜マリノスが勝利した。

観客数、視聴率など予想を上回る大成功

平成五年五月一五日、JRの千駄ケ谷駅周辺は、旗を持ち、チアホーンを吹き鳴らし、「オーレ、オーレ」と歌いながら国立競技場をめざす若者でごったがえした。中には、顔にひいきのチームカラーをペイントした〝異様な〟姿もまじっていた。

サッカーの檜舞台・ワールドカップに出場できる代表チームの育成、ホームタウン制のプロスポーツと総合スポーツクラブの創出を目標に、この日、日本初の

▶5月19日には国立競技場（手前）と神宮球場（奥）でJリーグとプロ野球が同時進行。国立は約6万人、神宮は3万6000人の入場者。

朝日新聞社

プロサッカーリーグ、Jリーグが開幕を迎えたのである。リーグには鹿島アントラーズ、ジェフユナイテッド市原、浦和レッドダイヤモンズ、ヴェルディ川崎、横浜マリノス、横浜フリューゲルス、清水エスパルス、名古屋グランパスエイト、ガンバ大阪、サンフレッチェ広島の一〇チームが参加した。

午後七時すぎ、超満員の場内から一斉に照明が消え、レーザー光線の乱舞する中、ロック演奏でオープニングセレモニーが始まった。川淵三郎Jリーグチェアマン（五六）は「大きな夢の実現に向かって、第一歩を踏み出します」と開会宣言。そして、スタジアムを埋めた約六万人のカウントダウンが始まる。「ゼロ」の大合唱が起きた七時三〇分、マリノスのキックオフでJリーグは始まった。この日のために準備をしてきたJリーグ関係者の中には、満員のスタジアムを見て涙を流す人もいたという。「ほっとしました。感激もしました。でも、これからが大切というのが実感でした」と、現・Jリーグ広報部マネージャーの加賀山公氏は回想する。

試合は、二対一でマリノスの逆転勝利。プロリーグにふさわしく格段とスピードアップした攻防は、観衆を十分に酔わせた。観戦したサッカーの世界組織・FIFA関係者も「まるで欧州の大会の決勝を見ているような素晴らしい試合」と絶賛、サッカーの王様・ペレは「ファンタスティックな試合。南米、欧州のトップレベルとはまだ差があるが、……日本は十分国際レベルに到達していると思う」と語った（『朝日新聞』五月一六日）。

国民は明らかに、新しいプロスポーツの誕生を祝福し、すべてが予想を上回る滑り出しであった。

開幕試合のテレビ視聴率はサッカー中継最高の三二・四％。同じ時間帯のプロ野球、広島対巨人戦の一七・五％を大きく上回った。一シーズン一八〇試合に足を運んだ観客は三二三万五七五〇人、一試合当たり約一万八〇〇〇人。これには、Jリーグ関係者でさえ予想外と驚きを隠さなかった。プロリーグの誕生は、若い女性や地域密着型の新しいサッカーファンを掘り起こしたのである。そうした人気を背景に、関連グッズの一年間の総売り上げは一一〇〇億円に達し、翌年の「長者番付」で、カズこと三浦知良選手（当時・二七歳）はプロ野球選手を押しのけて、前年の三倍近い納税額一億三七三〇万円でスポーツ選手の一位に。ちなみに、二位はプロ野球の落合博満選手だった。

人気過熱は、七月に入場券偽造事件まで引き起こしている。

▲人気者、アルシンドを模した「アルシンド・カット」

朝日新聞社

◀10月28日、カタール・ドーハでのW杯アジア地区最終予選最終日、イラクと対戦した日本はロスタイムに失点、W杯出場を逃した。写真は座りこむ選手たち。

朝日新聞社

行政、地元市民、企業一体の努力で参加した鹿島アントラーズが第一ステージに優勝すると、各地の自治体にサッカーによる町おこしブームが巻き起こった。

日本サッカーを二〇年以上にわたって取材してきた、東京新聞記者・財徳健治氏は当時をこう振り返る。

「あの日、満員に膨れあがった国立競技場を見て、背筋がゾクッとしました。そんな興奮は、平成九年に日本がイランを破ってワールドカップ出場を決めた時以外にありません。その満員のサポーターがサッカーを変えたんです。激しい当たり、攻守のスピーディな切り替えなど日本リーグ時代とは一変しました。観衆の求める新しいソフトを提供できたことが、Jリーグ成功の原因でしょう。ただ、新しいサポーターを会場に何度でも足を運ぶリピーターに変える努力が必要でしたが、それは不十分でした」

実際、三シーズン目から入場者数は減少し、民放のテレビ中継も激減する。経営危機で、〝身売り〟するチームも現れた。

▶平成四年四月から、初の外国人監督として日本代表チームを率いたハンス・オフト。

毎日新聞社

予選の最終戦でW杯出場を逃す

この年、日本サッカー界はもうひとつのビッグイベントに挑戦する。翌平成六年にアメリカで開催されるワールドカップの、アジア地区最終予選である。日本サッカーの強化を目標に始まったJリーグにとって、真価を問われる大舞台であった。

平成四年からハンス・オフト監督（四六）に率いられた代表チームは好成績を残し、Jリーグ人気もあって国民の期待を一身に集めていた。

一〇月、二人をのぞいて全員Jリーガーで構成された二二人の代表選手は中東のカタールに乗りこんだ。しかし、一〇月二八日、運命のイラク戦で、九分九厘手中にしたワールドカップ出場の夢を奪われる。国民の半分以上がテレビ画面にクギ付けになったと言われるこの夜、イラクに勝てばワールドカップ出場の決まる日本は、後に「ドーハの悲劇」と呼ばれるロスタイムの失点で引き分け、誰もが言葉を失った。

試合終了後、選手たちはピッチに崩れ落ち、しばらく立ち上がれなかった。号泣する柱谷哲二主将（二九）の姿が印象的だった。帰国後、柱谷は「できれば最後の一〇秒間をやり直したい」と語った。オフト監督は選手をたたえながらも「一年半かけてやってきたことが、たった数秒で……」とうめき、選手団長の川淵チェアマンは「残りの〇・一％で負けた」と肩を落としながらも、Jリーグの厳しさにもまれた選手が今後ますますふえるから、と四年後に希望をつないだ。

その希望は、平成九年一一月一六日マレーシア・ジョホールバルで実現する。同年九月に始まったフランス大会最終予選を、日本は苦しみながらも、ドーハの時とは逆に土壇場で勝ちあがる。平成八年のアトランタ・オリンピック出場に続く快挙の中心には、Jリーグが発掘し育てた「ドーハ組」以降の若い力があった。

▲鹿島アントラーズの点取り屋、アルシンド選手。 毎日新聞社

▶Jリーグには外国の大物助っ人も参入。その中でも超大物の、鹿島アントラーズのジーコ選手。

報知新聞社

▶Jリーグ創設期、日本のエース・ストライカーとして君臨したヴェルディ川崎の三浦知良選手。

朝日新聞社

フォト＋日録で再現する365日

▶史上初の兄弟大関誕生(7月21日)前場所13勝2敗、ここ3場所37勝の好成績をあげた関脇若ノ花(22)がうれしい昇進。「一意専心」を誓った。二子山部屋の上位独占がクローズアップされた。

日刊スポーツ

▶日本最大のブナの木(7月21日)秋田県田沢湖町のブナ原生林で、東京の「巨樹の会」会員が発見。幹まわり8.1メートル、高さ33メートル。樹齢700年と推定された。

読売新聞社

▶「地ビール解禁」へ熱い視線(8月26日)規制緩和の一環として、細川内閣が解禁方針。写真は、翌年の実施をあてこみ、12月、東京に登場した地ビール醸造所併設レストラン。

共同通信社

▼予防接種訴訟、全面勝訴(8月10日)福岡高裁が国の過失を認め、副作用による被害に賠償を命じる判決。翌年、再発を防止するため法改正、接種義務が緩和された。

読売新聞社

▶密航中国人、また米西海岸へ(7月11日)沿岸警備当局が、計1500人を乗せた貨物船7隻を発見。相次ぐ「難民」侵入に対し、行動計画を定めた矢先だった。

ロイター サンテレフォト

読売新聞社

▲横浜に「ランドマークタワー」誕生(7月14日)臨海部再開発「みなとみらい21」の象徴。高さ296メートルは日本一、エレベーターは世界最速だった。

読売新聞社

▲不況、女性直撃(8月7日)東京の中小企業合同企業説明会に、女子学生が殺到。10月末になっても、女子学生の内定率は59パーセントどまりだった。

▶西日本に集中豪雨(8月)九州南部を中心に、7月下旬から8月上旬にかけ土砂災害が続出。死者・行方不明者87人、家屋全壊492棟を数えた。写真は鹿児島県姶良町で。

読売新聞社

▶円高過熱(8月)日本の貿易黒字1326億ドル到達のニュースを契機に、急騰。細川新政権の経済改革期待、不況長期化が1ドル100円突破を踏みとどまらせた。写真は13日、レートが一時99円台となった市中両替窓口。

読売新聞社

証言・あの日この日

筑紫哲也(58)

12月16日(木)　〈私は昼前から国会の外と内、近くのホテルと場所を変えながら真紀子さんのインタビューを続けていた。／一段落したところで彼女は電話に立った。戻ってくると「申しわけないが、ここでインタビューを打ち切らせていただきたい」と言った。／理由はひとつしか考えられなかった。そこを去ってから1時間後、父親がこの世を去った〉(筑紫哲也『東京23時』)

「真紀子」とは田中角栄の一人娘、田中真紀子のこと。彼女は病床の父の引退の後、新潟3区の地盤を継いで、衆院選に立候補、父親譲りの派手な選挙活動で日本中の注目を集め、みごと1位当選する。代議士となった彼女には、マスコミが殺到。筑紫哲也も、当選から5ヵ月後のこの日、インタビューを試みる。しかし父・角栄の病状が悪化、途中で真紀子は席を立つ。　(山崎行太郎)

共同通信社

▲レインボーブリッジ開通(8月26日)2層構造で、上を首都高速道路、下を新交通システムや一般道が利用する。吊り橋部分の長さは918メートル。

時事通信社

▶「連立時代」船出(8月23日)8会派推薦の新首相、日本新党代表・細川護熙が所信表明演説。衆院議長は憲政史上初の女性、元社会党委員長・土井たか子(上)だった。

平成5年7月

1(木)●にっかつ、事実上の倒産。負債四九七億円。
2(金)●一世帯平均人数が初めて三人を割ると厚生省。
3(土)●米国、核実験停止延長を発表、英仏も同調。
4(日)●東京・世田谷区の小学校で起きた集団下痢事件で、「O157菌」を検出。
5(月)●英映画「オルランド」に、蔵相が無修整を指示、「ヘア解禁」第一号に。
6(火)●米・アップルコンピュータが大規模レイオフ。
7(水)●日本病院会が「患者の権利章典」を制定すると新聞に。患者のカルテ閲覧権などを明記。
8(木)●野村証券に、持株制限違反で追徴金四五億円。
9(金)●大阪地裁、阪大が行った腎臓移植手術に関連し、脳死を否定する判断を示す。
10(土)●フィリピンでニセ一万円札二万枚以上摘発。
11(日)●全日本女子柔道四八キロ級で田村亮子が三連覇。
12(月)●北海道南西沖地震。死者・行方不明者二三一人。奥尻島青苗地区で被害甚大。
13(火)●韓国で、フジテレビのソウル支局長が、軍事機密保護法違反などの容疑で逮捕される。
14(水)●横浜市に、「ランドマークタワー」が完成。
15(木)●日本人男性とフィリピン女性の結婚をめぐるトラブルが半年で一〇〇件突破、と新聞に。
16(金)●労働省、経営者団体に女子雇用公平化を要請。
17(土)●米映画「ジュラシック・パーク」、日本公開。
18(日)●第四〇回総選挙。自民党が過半数割れ。社会党が歴史的大敗を喫し、「五五年体制」崩壊。
19(月)●米国で、同性愛者の兵役を条件つき解禁。
●四国でツキノワグマの生息を確認。
20(火)●浜松医大が、知的障害を持つ女性の子宮摘出を行っていたことが判明。
21(水)●若ノ花が大関昇進。史上初の兄弟同時大関。
22(木)●不景気でゴミが三年連続減少と東京都発表。
23(金)●ゼネコン汚職で、竹内藤男茨城県知事逮捕。
24(土)●ロシア、旧ルーブル紙幣の使用禁止を発表。
25(日)●学生のアルバイト収入は年六三万円と新聞に。
26(月)●金融自由化で、銀行の証券子会社が営業開始。
●韓国のアシアナ航空機が、韓国南西部の山に激突、乗員・乗客一〇二人中六八人が死亡。
27(火)●予防接種禍訴訟で、初の和解成立。東海予防接種禍訴訟原告に国が約二〇億円を支払う。
28(水)●ポーランドとバチカンが四八年ぶり正常化。
29(木)●東京税関に麻薬犬三頭が初登場。
30(金)●自治省、自治体議長のたらい回し禁止を通達。
31(土)●生産者米価の二年連続据え置きが決定。

平成5年8月

1(日)●西日本で豪雨、三〇人死亡(上旬、鹿児島県中心に西日本の気象災害深刻、死者多数)。
2(月)●国立大学の入学辞退、昭和六二年以来の減少。
3(火)●中村建設相、ゼネコンへの天下り自粛を言明。
4(水)●政府、従軍慰安婦強制を初めて認め、謝罪。
5(木)●マンション購入者に二〇代が増加、と新聞に。
6(金)●第一二七特別国会で、衆院議長に土井たか子、首相に細川護熙を指名。
7(土)●英王室、バッキンガム宮殿の公開を開始。
8(日)●熱帯魚ブーム、輸入が四年で三倍と新聞に。
9(月)●日本人の平均寿命、男性は七六・〇九歳で四年ぶりに短縮、女性は八二・二二歳と厚生省。
10(火)●細川首相、「先の戦争は侵略戦争」と明言。
11(水)●国家公務員一種女子合格者が過去最多の二三二人と判明。
12(木)●今春の大学・短大進学率が四〇パーセント超と判明。
13(金)●タイでホテル倒壊、一三〇人以上が死亡。
14(土)●月額五〇〇万円以上の高額医療が五年で二倍と健保連調査。
15(日)●世界陸上のマラソンで、浅利純子が優勝。
16(月)●百貨店売り上げ、一七ヵ月間連続減少と判明。
17(火)●ロシア首相が、北方領土交渉拒否を表明。
18(水)●国税庁、宅地路線価を初めて引き下げ。
19(木)●世界先住民族二風谷フォーラム、北海道平取町で開催。
20(金)●サンフランシスコ郊外で、日本人留学生・栗山昌一さんが銃撃される(翌日死亡)。
21(土)●札幌上空でもオゾンが減少していると新聞に。
22(日)●米「ニューズウィーク」誌、「日本経済の奇跡の時代は終わった」と報道。
23(月)●東海道新幹線車内で、「覚醒剤男」が乗客を刺殺、警察官に重傷を負わす。
24(火)●甲府信用金庫OL誘拐殺人で、三八歳の会社員を逮捕。金に困っての犯行。
25(水)●国連人権小委、従軍慰安婦問題調査を決議。
26(木)●東京湾の「レインボーブリッジ」が開通。
27(金)●農水省、冷夏で米が四〇年ぶりの不作と発表。
28(土)●神奈川県中井町に、癌末期患者を介護する初のホスピス専門病院が完成。
29(日)●東京湾横断道の競争入札は形式だけと、「朝日新聞」が報道、会社幹部も認める。
30(月)●大学卒の初任給の伸びが戦後最低と日経連。
31(火)●気象庁、異常な夏で梅雨明けの日が特定できないと、発表ずみの梅雨明け宣言を取り消し。

「FRIDAY」／金澤智康

▶「ゼネコン汚職」核心へ(9月20日)東京地検特捜部が、建設のドン、清水建設会長・吉野照蔵(写真、75)を逮捕。後、8社首脳・4首長を起訴。建設業界・地方政界の構造汚職の根は深かった。

◀伊達公子(22)、全米オープンでベスト8(9月5日)チェコの強豪・ノボトナをストレートで破り、沢松和子以来の快挙を達成した。準々決勝では、残念ながらスイスのマレーバに敗れた。

AP／WWP

読売新聞社

◀「私は癌」(9月6日)テレビ番組「平成教育委員会」などの人気司会者・逸見政孝(48)が勇気ある記者会見。しかし12月、容体が急変。48歳の死だった。

読売新聞社

▶羽田空港、新装オープン(9月27日)新ターミナルビルの西側半分が完成。愛称・ビッグバード。汚い、狭い、交通の便が悪いと散々だった悪評を解消した。

読売新聞社

▶米作、戦後最悪(9月)冷夏のため、米どころの宮城県でも米を求める行列ができるほど。結局、平年の3割減となり、外国産米200万トンを緊急輸入。

◀「パレスチナ」で和解(9月13日)イスラエルとＰＬＯが、平和共存への方針転換で合意。左からラビン首相、クリントン米大統領、アラファト議長。

Cynthia Johnson／TIME／ユニフォト・プレス

平成5年9月

1(水)●ボスニア・ヘルツェゴビナの和平交渉、民族境界線で合意できず決裂。
2(木)●経団連、政治献金の仲介廃止を決定。
3(金)●戦後最大級の台風一三号が鹿児島県へ上陸し、西日本を縦断。死者・行方不明者四八人。
●天皇・皇后、欧州訪問に出発。
4(土)●米大リーグ、隻腕のアボット投手がノーヒットノーランを達成。
5(日)●中国残留婦人一二人が、身元引受人のないまま強行帰国、成田空港に「籠城」。
6(月)●作家・筒井康隆が差別批判に「断筆宣言」。
7(火)●長寿番付で、一〇〇歳以上が四八〇二人。
8(水)●厚生省出生動向基本調査発表。「一人だけなら女の子がほしい」が七六％。
9(木)●イスラエルとＰＬＯが相互承認で合意(13日、パレスチナ暫定自治協定に調印)。
10(金)●電気・ガス業界、円高差益還元値下げを発表。
11(土)●飲料会社、道路はみ出しの自販機撤去を約束。
12(日)●カンボジアＰＫＯで、自衛隊の任務終了。
13(月)●神奈川県警、「高校生デート嬢」五六人を補導。
14(火)●中国で、民主化運動活動家を仮釈放。
15(水)●ボクシングの辰吉丈一郎が網膜剥離で入院、世界バンタム級暫定王座返上を表明。
16(木)●政府、緊急経済対策を発表。九四項目の規制緩和と六兆円規模の景気てこ入れ。
17(金)●政府、小選挙区比例代表並立制など政治改革四法案を国会提出。
18(土)●日本眼科医会、近視手術を条件つき承認へ。
19(日)●米国、政府が関係する日本の公共事業について、全面開放・一般競争入札を要求。
20(月)●ゼネコン汚職で、吉野照蔵清水建設会長逮捕。
21(火)●公定歩合が一・七五％に。初の一％台。
22(水)●国際柔道連盟、賞金大会などを容認の方針。
23(木)●二〇〇〇年の夏季五輪開催地はシドニーに。
24(金)●カンボジアで立憲君主制の新憲法発布、シアヌークが国王に就任。
25(土)●米国でも、語尾を上げる話し方や「とか弁」が問題になっている、と新聞に。
26(日)●米国・アリゾナ州の「ミニ地球」実験が終了。中で生活していた八人が、二年ぶりに外界へ。
27(月)●ゼネコン汚職で、本間俊太郎宮城県知事逮捕。
28(火)●東北新幹線の二階建て車両に亀裂、と新聞に。
29(水)●熊谷組が、野球部と男子バスケット部を休部。
30(木)●政府、米不足のため、タイ米の緊急輸入決定。

読売新聞社

◀モスクワで市街戦(10月4日)反エリツィン大統領派のルツコイ前副大統領らが、最高会議ビルに籠城、軍・国民に同調を呼びかけた。エリツィンは正規軍を投入してこれを鎮圧した。

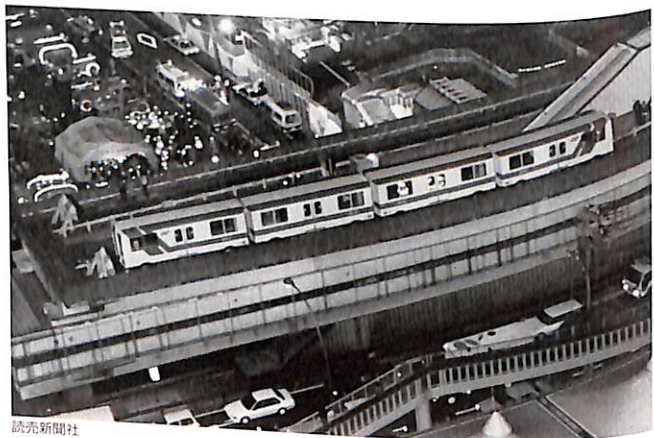
共同通信社

◀椿貞良テレビ朝日前報道局長、証人喚問(10月25日)連立政権成立への肩入れ報道を指示したとされる問題で、自民党が衆院特別委で追及。椿は「公正さ逸脱」は否定した。

読売新聞社

▲「心停止後」肝移植(10月22日)九大病院が、大阪の男性から提供を受けて実施。大阪府が脳死移植を許可せず、心停止を待って行われた。患者は翌年1月死亡。脳死論議が再浮上した。

◀ローマでのレイプ裁判始まる(10月15日)日本人女性6人を暴行したとされるカバキ被告に、被害者が勇気ある対決。被告はまさかの展開に蒼白となった。

グリーンピース・ロイター・サンテレフォト

◀ロシアが放射性廃棄物を日本海に投棄(10月17日)国際環境保護団体・グリーンピースの監視船(写真)が、ウラジオストクの南東約200キロで発見。日本などの強い抗議で、再投棄は中止となった。

▶大阪でハイテク電車の暴走(10月5日)市営ニュートラム・南港ポートタウン線が、住之江公園駅で車止めに激突。ラッシュ時だったため約200人が重軽傷。自慢の完全無人運転に不安が広がった。

読売新聞社

平成5年10月

1(金)●科学技術庁、日本のプルトニウムは、国内に一・六トン、英・仏に二・九トンと公表。
2(土)●伊勢神宮で式年遷宮、「遷御の儀」挙行。
3(日)●モスクワで、反大統領派市民ら二万人が内務省部隊と衝突、内戦状態に(4日、制圧)。
4(月)●インドネシアで日本人工場長が殺害される。
5(火)●大阪で新交通システム「ニュートラム」が暴走事故、約二〇〇人負傷。
6(水)●大阪地裁、豊田商事の「金の現物まがい商法」事件で、国の責任は認めない判決。
7(木)●統一教会の合同結婚式参加の女性が結婚無効を訴えた裁判で、福岡地裁が訴えを認める。
8(金)●国連総会、南アへの経済制裁解除を決議。
9(土)●独で、ＨＩＶ汚染血液による感染事例隠蔽が発覚、二〇〇万人が要検査とわかりパニック。
10(日)●総務庁、高校生のバイク「三ない運動」見直しのため、警察などと検討会設置、と新聞に。
11(月)●エリツィン大統領来日。シベリア抑留を謝罪、北方問題に関する五六年宣言の有効性を確認。
12(火)●年金審、厚生年金の六五歳支給の意見書提出。
13(水)●警視庁、金大中事件で金氏から初めて事情聴取。金氏は二〇年ぶりに被害届を提出。
14(木)●厚生省が鉛の水道管一掃に乗り出すと新聞に。
15(金)●ノーベル平和賞に、南アのマンデラ民族会議議長とデクラーク大統領。
16(土)●神戸製鋼は、運動部社員のボーナスの一部を試合の成績で査定、と新聞に。
17(日)●ロシア、日本海に核廃棄物を投棄。
18(月)●労働省、職場のセクハラを初めて定義。
19(火)●国連総会、地雷撤去作業支援を決議。
20(水)●皇后、赤坂御所で倒れ、発語障害に。
21(木)●日産自動車、管理職の年功賃金廃止を決定。
22(金)●九大で、二五年ぶりに心停止後の肝移植手術。
23(土)●社会保険給付が初の五〇兆円突破、と新聞に。
24(日)●米不足の中、島根・鳥取などで、米泥棒対策の「新米保険」が大当たり、と新聞に。
25(月)●衆院、テレビ朝日前報道局長を証人喚問。
26(火)●ＪＲ東日本株式上場。初値は六〇万円。
27(水)●イスラエル、パレスチナ人の釈放を開始。
28(木)●サッカーW杯予選・日本対イラク、イラクがロスタイムにゴール、日本は初出場はたせず。
29(金)●EC首脳会議、二〇世紀中の通貨統一で合意。
30(土)●イタリアのオリベッティ社会長、贈賄で逮捕。
31(日)●主要二一行の不良債権は一四兆円、と新聞に。

▲服部君の両親、銃規制訴え（11月16日）クリントン米大統領に、「フリーズ（動くな）」がわからず射殺された息子の悲劇を伝え、同調者の署名簿を手渡した。

ホワイトハウス／読売新聞社

▲韓国人「武装スリ団」大暴れ（11月23日）白昼の東京・日暮里駅で刑事と格闘。包丁などで激しく抵抗し、銃撃を受けた一人は重傷、3人が逮捕された。

読売新聞社

▲旧姓使用認められず（11月19日）国立大女性教授・関口礼子さんが起こした、大学側の本名使用強制は人権侵害とする訴えを、東京地裁が却下。公務員になじまぬ、が理由。

時事通信社

◀クレーンの下敷き（11月19日）東京・墨田区の建設現場で、大型クレーンを解体中の小型クレーンが突然折れ、作業員一人が全身打撲で死亡、二人が軽傷。

読売新聞社

◀筒井康隆、マスコミ批判（11月11日）新聞労連主催の集会で、自著を差別的と抗議されて断筆した無念の思いを、マスコミの安易な「自主規制」にも向けた。

共同通信社

▲ロス近郊で山火事（11月2日）スターの邸宅が並ぶマリブの被害は甚大で、約200戸が焼失（写真）。乾燥地を開発した人工都市のもろさを見せつけた。

AP／WWP

平成5年11月

1（月）●負債五九〇〇億円、中堅建設会社・村岡建設、バブル投資が破綻し戦後最大規模の倒産。
2（火）●ロサンゼルスで大火、合計三〇〇戸以上焼失。
3（水）●文化勲章に司馬遼太郎ら五人（4日、文化功労者に山田五十鈴・古橋広之進ら一五人）。
4（木）●緒方貞子、国連難民高等弁務官に再任。
5（金）●政府税調、所得税・消費税の増税方針を確認。
6（土）●細川首相訪韓、首脳会談で植民地支配を謝罪。
7（日）●形状記憶ワイシャツがブーム、と新聞に。
8（月）●東京高裁、横田基地騒音訴訟で、米軍に夜間飛行差し止めを要請（18日、米軍同意）。
9（火）●経企庁、六月の景気底入れ宣言を撤回。
10（水）●産業構造審議会、製造物責任制度（PL法）導入促進を答申。
11（木）●オーストラリア縦断ソーラーカーレースで、本田の「ドリーム号」が日本車初の総合優勝。
12（金）●環境基本法が成立。
13（土）●病院の麻酔事故、半年で死者五六人と新聞に。
14（日）●松下電器、家庭用生ゴミ乾燥処理機を発売。
15（月）●公取委、電気大手六社を談合容疑で検査。
16（火）●ベルマーレ平塚・ジュビロ磐田、Jリーグ昇格。
17（水）●米下院、北米自由貿易協定を可決。米・カナダ・メキシコの経済的一体化めざす。
18（木）●運輸省、京都のタクシー会社の値下げを認可。
19（金）●東京地裁、職場での旧姓使用を求めた訴訟で、民法の夫婦同姓規定は合憲と判示。
20（土）●逆指名を認める新方式のドラフト会議実施。
21（日）●資産運用環境悪化で、生保各社が養老保険などの保険料を一～二割値上げする、と新聞に。
22（月）●東京都、認定ゴミ袋の強制使用を断念。
23（火）●将棋の森安九段、中一の長男に刺されて死亡。
24（水）●帯状疱疹の新薬「ソリブジン」と抗癌剤の併用で、発売一ヵ月間に一四人死亡と判明。
25（木）●独のフォルクスワーゲン社、週休三日制で人件費を節約、三万人の解雇を回避と発表。
26（金）●ホテル・ニュージャパン火災事件で、横井英樹被告の禁固三年が確定。
27（土）●中小企業の厚生年金基金へ、認可権を持つ厚生省から大量に天下りしていることが判明。
28（日）●長岡技術科学大学グループが水よりも軽い合金を開発、と新聞に。
29（月）●郵便料金値上げ決定。はがきが四一円から五〇円、封書が六二円から八〇円に。
30（火）●オランダで、世界初の「安楽死法」が成立。

読売新聞社

▲田中角栄元首相死去（12月16日）ロッキード裁判渦中に倒れ、かつての「闇将軍」の威光はついに蘇らなかった。75歳。写真は、25日に行われた自民党・田中家合同葬。

▶ロシア新議会選挙で極右躍進（12月12日）下院全国区では、ジリノフスキー（写真、47）党首の自由民主党が得票率1位。その主張「弱者救済」「帝国再興」への共鳴者が多かった。

共同通信社

◀京都に値下げタクシー登場（12月1日）近畿運輸局が、タクシー会社「MK」が申請した10パーセント値下げを認可。同業者の批判の中、ついに、「同一地域・同一運賃」制度に風穴を開けた。

共同通信社

▼落合博満、巨人入り（12月21日）プロ野球初のFA制導入に応じ、史上最高の推定年俸3億7000万円で、中日から移籍。写真左は長嶋監督。翌年、長嶋巨人は「落合効果」で初の日本一に輝いた。

読売新聞社

読売新聞社

▲コメ開放反対！（12月9日）ジュネーブで開催中のウルグアイ・ラウンドに届けと、米農家が国会デモ。しかし14日、細川首相は「部分開放」受け入れを表明。

▶天皇・皇后、吹上新御所へ（12月8日）赤坂御所から「剣と璽」とともに引っ越し。御所が皇居に戻るのは4年11ヵ月ぶり。新御所は3棟62室。総工費約56億円。

宮内庁提供

平成5年12月

1（水）●軽油引取税三割アップ、一ドル三二・一円に。
2（木）●コロンビアの麻薬密売組織の首領・エスコバルが、治安部隊との銃撃戦のすえ射殺される。
3（金）●民間調査で、戦後最長の不況確実、と新聞に。
4（土）●欧州の高級ブランド衣料に代わり、手頃な価格で実用的な「アメカジ」に人気、と新聞に。
5（日）●東京で、日本初の身障者自転車競技会開催。三年後のパラリンピックめざす。
6（月）●厚生省、丸山ワクチンの治験期間延長を認可。
7（火）●ニューヨークの電車内で銃乱射、五人死亡。
8（水）●世界自然遺産に屋久島と白神山地（9日、文化遺産に法隆寺地区の仏教建造物と姫路城）。
9（木）●韓国大統領、米市場の部分開放を表明。
10（金）●英仏海峡トンネルが完成、引き渡し。
11（土）●マレーシアのクアラルンプールでマンション倒壊、日本人一人を含む七二人が死亡。
12（日）●米「ニューズウイーク」誌、日本の終身雇用制は二〇一〇年までに崩壊と報道。
13（月）●世界の半導体シェア、米国が日本抜き首位に。
14（火）●予防接種が義務から任意制へ。
15（水）●ウルグアイ・ラウンド、最終合意案を採択して閉幕。日本は米の部分開放を受け入れ。
16（木）●大阪高裁、衆院定数で初の違憲判決。
17（金）●労働省、総合雇用対策「雇用支援トータルプログラム」を策定。
18（土）●中央競馬会、コンビニで馬券の試験販売実施。
19（日）●埼玉県で、日本初の女性グライダー・アクロバットチームがデビュー。
20（月）●日本の実質経済成長率はマイナス〇・五㌫で、主要七ヵ国中最低と、経済協力開発機構発表。
21（火）●女性の未婚率が昭和五〇年の二倍と判明。
22（水）●南アで、黒人に参政権認める暫定憲法成立。
23（木）●ボクシング世界バンタム級選手権で、薬師寺保栄が韓国の辺丁一を破る。初挑戦で王座。
24（金）●三菱化成と三菱油化が合併で合意。
25（土）●外国人小中学生が一万人突破と文部省調査。
26（日）●競馬の有馬記念、七八八億円の売り上げ。
27（月）●労働組合組織率は二四・二㌫と労働省調査。
28（火）●パチンコメーカーが、「連チャン機」自粛、と新聞に。
29（水）●総務庁、情報公開法制定準備室の設置を決定。
30（木）●暴力団員は前年比一万人減、と警視庁調査。
31（金）●作家・大江健三郎の長男、光さんのレコードが、レコード大賞企画賞を受賞。

◀7月30日、宮崎市に大規模リゾート施設「シーガイア」がオープン。人工海岸や地底探検列車などの施設を備え、入場料は4200円。

共同通信社

流行語

昔食べ物、今子ども……

「エンジェル係数」。収入に占める子どもの養育費の割合のことで、エンゲル係数（家計に占める食費の割合）をもじったもの。一流企業につとめて、収入は十分なはずなのに、子どもの進学や塾などにお金がかかって生活が苦しいという家庭がふえたことから、こんな言葉が使われた。

「リストラ」。就職を控えた学生の間で、目や鼻を整形手術すること。この年は就職不況で、それを反映して、学生の間ではさまざまな就職用語の新語が飛びかった。これもそのひとつで、整形そのものは以前からさかんだったが、それがこう呼ばれるようになった。

「釣りバカ族」。若い女性の間で、やたらに声をかけてくるおじさんのこと。同じように女の子に声をかけるのでも、若い男性なら「イサリ者」（漁り者）と呼ばれた。

「イク」。セックス用語ではなく、若者の間で自分の世界に入りこんで、周囲が見えないこと。

「いい夢みろよ」。タレントの柳沢慎吾が言い出して流行した言葉で、「さよなら」というところをキザに言った点が受けた。

マネー

脱サラで年収二〇〇〇万 京都のオオクワガタ成金

〔京都発〕京都に住む平山隆也さん（三七）は、オオクワガタ捕りの名人である。この道一五年、趣味がこうじて、七年前に脱サラした。2DKのマンションには昆虫飼育用の水槽がズラリ。その中にオオクワガタが約三〇〇頭。相場は七〇ミリものが店頭価格二八万円。六〇ミリ台なら一ミリごとに一万から二万円、七〇ミリを超えると一ミリごとに五万から一〇万円ずつアップする。

平山さんの年収は、二〇〇〇万円を超える。もちろん頑張ればもっと。サラリーマン時代の年収は約三〇〇万円だったという。ただしオオクワガタに熱中しすぎて、奥さんから愛想をつかされ、平成四年に離婚した。それでもこの道を捨てることはできない……。

（「週刊朝日」八月六日号）

スポーツ

東大一一年生 夢のプロ野球審判に

東大出身初のプロ野球審判が誕生した。

鶴田秀康さん、二九歳。鹿児島県のラ・サール高校から現役で東大理Ⅰに合格。高校時代は軟式野球部に所属していたことから、東大でも野球部に入部した。ほとんどは補欠だったが、四年生の秋に投手として神宮球場のマウンドを踏んだこともある。

現在は工学部金属工学科の一一年生。休学、留年を重ねること数度、家庭教師などのアルバイトをするかたわら、東京六大学の審判員をつとめていた。これがプロの目にとまり、来年春、セリーグの審判としてデビューすることになった。せっかく入った東大だが「やりたいことと、やるべきことがようやく一致した」のだから、中退するつもりだという。

（「週刊読売」一二月一二日号）

▲古谷実作・画「行け！　稲中卓球部」が「ヤングマガジン」3月29号から連載開始。下ネタギャグが女子中・高生に受け、"稲中ブーム"が広まった。©古谷実／講談社

CM100年 テレビCF「アルシンドになっちゃうよ――ヘア・チェック」（アデランス）

タレント・アルシンド

女性

あなたの"女盛り"は数字の裏の女心

〔福岡発〕地元の新聞社が「あなたにとって"女盛り"とは何歳ですか？」という調査を行った。

結果は一八～一九歳＝一〇％。二〇～二四歳＝一〇％。二五～二九歳＝一五％。三〇～三四歳＝三〇％。三五～三九歳＝二〇％。四〇歳＝一五％。

中には「女盛りはとっくにすぎた」という二一歳の女性もいた。

（「西日本新聞」五月一一日）

はやり歌

心凍らせて

作詞　荒木とよひさ
作曲　浜圭介

あなたの愛だけは
今度の愛だけは
他の男とはちがうと
思っていたけど
抱かれるその度に
背中が悲しくて
いつか切り出す
別れの言葉が恐くて
心凍らせて　愛を凍らせて
今がどこへも　行かないように
心凍らせて　夢を凍らせて
涙の　終わりにならないように

▶高山厳が平成四年にレコーディングして、一年後に大ブレーク。平成五年度日本有線放送大賞を受賞した。
ゼティマ提供

無言坂

作詞　市川睦月
作曲　玉置浩二

あの窓も　この窓も　灯がともり
暖かな　幸せが　見える
一つずつ　積み上げた　つもりでも
いつだって　すれ違う　二人
こんな　つらい恋
口に出したら　嘘になる
帰りたい　帰れない　ここは無言坂
帰りたい　帰れない　ひとり日暮坂
あの町も　この町も　雨模様
どこへ行く　はぐれ犬　ひとり
慰めも　言い訳も　いらないわ
答えなら　すぐにでも　出せる
こんな　つらい恋
口を閉ざして　貝になる
許したい　許せない　ここは無言坂
許したい　許せない　雨の迷い坂
ここは無言坂

▲平成4年に「花挽歌」で日本歌謡大賞を受賞した、香西かおりのヒット曲。平成5年度日本レコード大賞を受賞した。
ポリドール提供

三面記事

景気回復は憂さ晴らしから

消費の冷えこみで百貨店業界が厳しい局面の中、鹿児島市の山形屋デパート（岩元恭一社長）が、ユニークな社内活性化法を実行し始めた。

「にくい社長や専務、組合幹部の名前を刷りこんだゴルフボールを思いきりひっぱたいて、ストレスを発散させよう」

というアイディアのもとに、社長、専務、常務、それに労働組合幹部など七人の名前を入れたボールを売り出したのだ。ボールには平仮名で「きょういち」「かつすけ」といった名前がプリントされている。

この発案者は岩元社長で、「今年はいろんな意味で厳しい年になりそうなので、仕事の前に日頃にくんでいるものの名前をひっぱたいて、スカッとしてもらおうと思って……」という。

ちなみにこのボールは二月二六日、社員食堂の前で売り出されたが、社長の名前の入った「きょういち」ブランドは、発売五分で売り切れた。

（「南日本新聞」二月二七日）

▲この年は全国的に39年ぶりの冷夏。銀座のビアガーデンも開店休業の状態。

読売新聞社

海外

死体を乗せて買い物旅行 ロシア人のすごい執念

〔モスクワ発〕ポーランドに買い物ツアーに出かけたロシア人の一行が、グループの一人の男性が、心臓発作を起こしてバスの中で急死したにもかかわらず、そのまま数日間、遺体を後部座席に放置して旅行を続けていたことがわかった。

旅行はロシア製の商品を抱えてポーランドに出かけ、商品を売った金で、ポーランド製の安い商品を仕入れる。それをロシアで高く転売するというもので、最近のロシアでは、この"ビジネス・ツアー"が大変さかんである。

男性がバスの中で亡くなった時、運転手は旅行の中止を申し出たが、ツアー客は儲けの多い旅行だからと拒否、遺体を乗せたまま続けることで意見が一致した。ポーランドに着いた時、埋葬しようという意見も出たが、地元当局の許可が得られなかったため、そのままロシアに持ち帰ったという。

（「神奈川新聞」一月一一日）

データ

断トツはゴルフ場など 平成の森林破壊

平成元年から五年までに開発された林地の面積を用途別にまとめると、次のとおりである。

①ゴルフ場・レジャー用地　三万五九四〇ha。
②農用地　一万六八八〇ha。
③公共用地　一万二九二八ha。
④住宅・別荘用地　一万一七〇七ha。
⑤工場・事業場用地　九二五〇ha。
⑥その他　一万五三二九ha。

ちなみに、ゴルフ場・レジャー用地の開発面積を年度別に見ると、平成元年＝八〇二三ha、二年＝六三五一ha、三年＝七四八九ha、四年＝八七二九ha。五年＝五三四九haで、バブル崩壊がはっきりした平成五年の落ちこみが目立つ。

（国土庁編『国土統計要覧』平成七年版）

◀日立製作所のステンレス槽式洗濯機が回転数のアップで脱水能力向上。カビ・汚れに強いことなどで、ヒット商品に。

日立製作所提供

この年の初もの

最高速度五〇キロ電気スクーター

●臭気判定技士　一月、環境庁が制度化。

●サッカー専門学校　四月、石川県松任市に開校。定員四三人で二年制。

●女性真打ち　三遊亭歌る多と古今亭菊千代が、落語史上初の女性真打ちに

●女性優先電話　福岡市に開設。ボックス内は日焼け止めに紫外線がカットされ、化粧鏡、芳香剤、ティッシュつき

「FRIDAY」／斉藤正則

▲この年、頭がよくなるという栄養素・DHAを多く含んだマグロの目玉がブームに。

世界の動き

コカイン密売ルートは日本にも深く浸透中
クリントン大統領を狂喜させた“麻薬の帝王”の死
「メデジン・カルテル」エスコバル射殺！

▲鉄格子の中のエスコバル。1991年6月、コロンビア政府に投降、投獄されたが、翌92年7月21日、脱獄逃亡する。 GAMMA／インペリアル・プレス

◀1993年12月2日、エスコバルはメデジン市の隠れ家で治安部隊の急襲を受け、銃撃戦のすえに射殺された。写真はエスコバルの遺体。

AP／WWP

一九九三年暮れ、世界最大の麻薬密売組織のドンが、コロンビア治安部隊によって射殺された。麻薬禍に悩むアメリカで密売されるコカインの大半を供給していた「闇の帝王」の射殺に、クリントン米大統領は「祝電」を送った。だが、その射殺後も、麻薬禍の弊害は全世界でさらに拡がっている。

治安部隊が隠れ家急襲 麻薬の帝王、射殺される

一九九三年一二月二日昼すぎ、コロンビア第二の都市、メデジン市にある一軒の家を、特殊コマンドを含む治安部隊五〇〇人が二重三重に取り囲み、次第に包囲の網をせばめていった。この家は、世界最大の麻薬密売組織を率いるパブロ・エスコバルの隠れ家だった。彼は前日、四四歳の誕生日を迎えたばかり。周辺の電話線は切られ、エスコバルは文字どおり“袋のネズミ”となっていた。

午後二時五一分、完全武装のコマンドがドアをこじ開け、内部に突入した。二階にいたエスコバルは、異変を察知し、銃を握り靴を抱えて三階へ走った。近辺にいたのは腹心の部下一人だけ。二人とも応射したが、三階から隣家の屋根に飛び降りた部下は待ちかまえていた突撃隊に蜂の巣にされ、エスコバルも二丁の九ミリ銃で応戦したが、あっけなく射殺された。検視によると、エスコバルには一二発の弾丸が命中し、そのうちの一発はみごとにこめかみを撃ち抜いていた。

アメリカのクリントン大統領はこの「射殺」の報を聞くと、ただちに異例の「祝電」をガビリア・コロンビア大統領に送っている。

一九八〇年代初頭からエスコバルが組織した「メデジン・カルテル」は、最盛期には二〇〇〇人を超える構成員を数え、ロケット砲まで保有する私兵を持ち、コロンビア政府ですら手の出せない強固な結束を誇っていた。コカインの精製は年間に六〇〇トンとも推定された。当然その販売は非合法であり、外国へは密輸されていたのである。

アメリカで密売されるコカインの大半は彼らが精製したもので、エスコバルの収入は年間三〇〇億ドルに達していたと推定され、合衆国政府をいらだたせていた。一九九五年に世界で押収されたコカインは二五一〇トンにのぼったが、そのうちアメリカが一〇〇トンを占め、二位のコロンビア（三一トン）以下を圧倒的に引き離している。エスコバルは本来、裏社会の人物であるにもかかわらず、「フォーブズ」などアメリカの経済誌の世界富豪番付に堂々とランキングされたりもしていた。

彼は一九九一年六月にみずから政府側に投降し、刑務所生活を送ったが、その待遇は超豪華な別荘生活のようで、専用の“個室”は一〇〇平方メートル。リビング、ベッドルーム、バスルーム、ゲーム室まで備わり、六〇インチの大型テレビが設置されていた。外部への通信は無制限、家族など外部の人との面会も思いのままだった。そのうえ、それを誇示する写真が全世界に報道され、時のガビリア大統領に屈辱を与えた。だが、エスコバルの服役中にさしもの鉄壁を誇った組織にも内部分裂が起こる。そして政府や軍の息がかかったライバル組織「カリ・カルテル」が、エスコバルの縄張りを次々と奪い去っていったのである。

しかし、射殺の翌日、メデジン市内で行われた葬儀には、数万人の群衆が詰めかけ、家族がエスコバルの遺体の埋葬に立ち会えないほどの混乱となった。スラムに住む下層民衆にとって、エスコバルは学校や教会、病院からサッカー場までの建設費をぽんと出してくれる“偉人”だった。民衆は、エスコバルを「ロビン・フッド」と呼んでいた。

新宿・歌舞伎町にもコカイン販売ネット

地球の真裏の「メデジン・カルテル」の存在は、東京・新宿や大阪・ミナミをはじめ日本全国の盛り場にも無関係ではない。もともとエスコバルが健在だった当時から、「メデジン・カルテル」は世界中にその触手を伸ばしていた。そして

▶エスコバルが収監されていたメデジン郊外のエンビガド刑務所。ここで脱走劇が繰り広げられた。

AFP／PANA通信社

▶射殺された翌日の、一二月三日に行われたエスコバルの葬儀。多くの参列者が詰めかけた。

AP／WWP

外から見たNIPPON

一〇九年後にアラン・ブースが追体験した西郷隆盛の〝退却〟

佐伯　修

明治一〇年八月一五日、政府軍からの延岡奪回に失敗した西郷隆盛とその私学校の門下生以下の「薩軍」は、鹿児島をめざして退却を開始した。それからちょうど一〇九年後の同じ日、一人の英国人が延岡から、彼らのおちのびていったルートを、彼ら同様に徒歩でたどろうとしていた。

この年、平成五年に刊行された著書『西郷隆盛の道』(柴田京子訳)によれば、彼、ロンドン生まれ、満四一歳のアラン・ブースの眼に映った、昭和六一年八月の延岡は、こんな場所だった。

「神社(今山八幡宮)から、暑さにうだっている街全体がはるかに見わたせた。この街を流れる四本の川の河口のもやがかった浅瀬。ちらちら光る沖合いに浮かぶハマチの養殖場。ゆっくりと単調に浜に砕ける波。バイパスにかかる橋をびゅんびゅん飛ばしていくトラック。プラスティック、化学肥料、製薬、合成繊維の工場の赤と白の煙突」「ショッピング・アーケードに沿って設置されたラウドスピーカーは、日本人歌手が

▶姉妹編に、太宰治の風土を歩く『津軽』がある。

歌うポール・アンカのメドレーを流していた。開いている店といえば、スイカを売っている店とパチンコ店、壁もじゅうたんも真っ黒で、葬式にでも着ていくのかよというような色の服が神経をつかってまばらに吊るしてある新しくてかっこいいブティックと、農具を売っている店ぐらいのものだった」

こうした、どこにでもある日本の地方都市の風景に背を向けるように、ブースは山中にわけ入り、道に迷い、疲れはて、脚を傷め、堂々めぐりをしながら、西郷たちの悪戦苦闘を、身をもって追体験しようとする。しかし、彼の出会う現代の日本人たちは、誰一人としてそんな道は通らず、そんな距離を徒歩で行きもしない。不可解と好奇と憐憫と揶揄のいりまじった彼らの視線をあびながら、ブースは、近代からとり残された西郷のように、孤独な歩みを続ける。

「西郷は九月一日の夜半に鹿児島入りした。ぼくは、一八日前、延岡を出発してからおよそ四百八十キロを歩いて、三日、この街に入った」「ぼくは西郷終焉の地を訪れた。そこには小さな石碑がある。(中略)木々もやぶも根っこも記念碑も、掃き清めようというものがいないらしく、二、三センチもの灰に埋もれていた」

昭和四五年、能の研究のため来日したブースは、日本各地を歩いたが、この年、癌のため逝った。前年、日本の永住権を取ったばかりだった。著書に『文部省特別非検定　英語聖語読本』などがある。

バブル経済に酔いしれ、経済大国の名をほしいままにしていた〝ニッポン〟はそのかっこうのターゲットだった。彼らは日本国内に偽造パスポートで入国し、コカインの販売ネットを作り、拡大していったのである。

コカイン一グラムの価格が、日本人密売人ならば三万円から四万円だった時に、コロンビア・マフィアは一万二〇〇〇円から一万五〇〇〇円で売りさばいていた。この超低価格が実現できたのは、強力な組織、特に大量密輸のルートがあったからだ。ただし、日本でのコカイン押収量は、平成五年で二五・七キロとアメリカなどに比べれば桁違いに少ない。

盛り場の密売人などの実態をさぐったルポ『新宿歌舞伎町――マフィアの棲む街』の著者・吾妻博勝氏は、こう言う。

「貨物船で直接持ちこむのはもちろん、輸入家具の中味をくり抜いてコカインを詰めたものが発見されたことなどもあります。しかし見つかったのはほんの一部で、大部分は摘発されないまま闇の販売ルートに乗っていったと考えられます」

そして、ルート確保の一端は、南米の日系人に対して長期就業を可能にするビザ発給の優遇制度だった、と吾妻氏は指摘する。日系人一世から戸籍を借り、二世、三世になりすましたニセ日系人が、国際郵便で送られてくるコカインの受取人になっていたのだと言う。日系人に送られてくる郵便物のチェックは、一般の外国人に対するものと比べ、比較的ゆるやかだった(少なくとも売人たちはそう思っていた)からなのだ。

コカイン密売人の新しい必需品は、携帯電話だ。顧客リストを記憶させた携帯電話は、時には三〇〇万円から一〇〇〇万円もの高値で売買されているという。

コロンビア・マフィアの特色は、摘発されてもけっして口を割らないことだ、と前出の吾妻氏が語る。

「中国マフィアの口も堅いと言われますが、コロンビアはそれ以上。ひとたび口を割ったことが知れると、本国の家族や親戚が殺されるという恐怖心が、そうさせたのでしょう」

エスコバルの死で、「メデジン・カルテル」は壊滅したが、コロンビア・マフィアは「カリ・カルテル」のもとで、日本をはじめ全世界で、今も麻薬類を大量に売りさばいている。

▲この年三月一九日、静岡県警が暴力団から押収したコカイン五・八五キロ。末端価格は約四億円。

共同通信社

パブロ・エスコバル(1949～1993)
コロンビアの麻薬密売組織「メデジン・カルテル」のリーダー。一九八〇年代初頭に組織を結成、コカインの密売で大富豪に。一九九三年射殺される。

往きて還らぬ

▲10月20日　杉山寧(84)
日本画家。日本画壇を代表する一人。昭和49年文化勲章受章。代表作に「孔雀」など。作家・三島由紀夫は娘婿。

▲7月10日　井伏鱒二(95)
小説家で、庶民生活を温かい筆致で描いた。昭和41年文化勲章受章。代表作に『山椒魚』『黒い雨』など。

▲1月30日　服部良一(85)
作曲家。日本のポップス界の草分けで、「別れのブルース」「東京ブギウギ」などを生む。「日本レコード大賞」を創設。

▲10月31日　F・フェリーニ(73)
映画監督で、イタリア映画界の巨匠。社会の底辺の人々を描いた「道」(1954年)で名声を確立。ほかに「甘い生活」。

共同通信社
▲7月27日　川喜多かしこ(85)
外国映画輸入の第一人者で、戦前からヨーロッパの名作を日本に紹介。昭和57年川喜多記念映画文化財団を創設。

▲2月16日　日向方斉(86)
実業家。関西経済界の重鎮。昭和37年住友金属工業社長に就任。関西経済連合会会長を12年間つとめた。

▲1月20日　A・ヘプバーン(63)
米の映画女優。1953年「ローマの休日」に初主演、アカデミー主演女優賞受賞。清楚さで人気に。

▲12月1日　益田喜頓(84)
俳優。昭和12年結成の「あきれたぼういず」で一躍スターに。戦後東宝入り。「屋根の上のヴァイオリン弾き」など。

◀8月21日　藤山一郎(82)
歌手。戦前「丘を越えて」、戦後は「青い山脈」などが大ヒット。美声と端正な歌い方でファンを魅了した。写真左。

▲1月22日　安部公房(68)
小説家。戦後日本の前衛文学のリーダー。『砂の女』は海外でも反響を呼ぶ。ほかに『他人の顔』など。

▲12月16日　田中角栄(75)
政治家。土建業を経て、昭和22年総選挙で初当選。47年首相となり、「今太閤」と騒がれるが、49年金脈問題で辞任。

共同通信社
▲9月10日　ハナ肇(63)
「クレージー・キャッツ」のリーダー。テレビ「シャボン玉ホリデー」で人気に。グループ解散後は、俳優として活躍。

▶3月16日　笠智衆(88)
俳優。映画監督・小津安二郎の作品や、「男はつらいよ」シリーズなどで、名脇役としてファンに愛された。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第94号 1月6日(水)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1994[平成 6 年]

●特集
アジア人女性初の偉業! 向井千秋さんと夫の「宇宙」への旅だち/松本サリン事件――被害者・河野義行氏が語る「冤罪の構造」/米不足に便乗し"自由化"をもくろむ 平成「米騒動」の仕組まれたプロセス/最後のカリスマ・金日成急逝!国際的孤立の中で北朝鮮を襲った混乱

●ニュース・ファイル
フォト+日録で再現する365日…小錦、日本国籍を取得(2月1日)/ユーロトンネル開通(5月6日)/製造物責任(PL)法成立(6月22日)/「気象予報士」第一回試験(8月28日)/関西国際空港が開港(9月4日)/四五歳のフォアマン、ヘビー級王座奪回(11月5日)

●人物クローズアップ
羽生善治、前人未到の将棋六冠王!

●決定的瞬間
"天才"アイルトン・セナ、激突死!

●美の出会い
大好評! 幻のバーンズ・コレクション展

●女たちの肖像…子役・安達祐実がテレビ席巻!/勝者・敗者…カズのPKでヴェルディ、初代王者に/証言・あの日この日…加茂周、秦恒平/「現場」を歩く…芝浦、あの「ジュリアナ東京」の変遷/20世紀博物館…岩崎ミュージアム(神奈川)/外から見たNIPPON…日系三世・ケイコの日本出稼ぎ

●ベストセラー…永六輔『大往生』/スターと名場面…深作欣二監督「忠臣蔵外伝 四谷怪談」/モノ語り'94…「プレイステーション」

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付しました。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中(既刊93冊! 1900・1910・1920・1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました)

一九〇〇年代
第81号1901[明治34年]

一九一〇年代
第71号1911[明治44年]

一九二〇年代
第62号1921[大正10年]

一九三〇年代
第43号1931[昭和6年]

一九四〇年代
第19号1941[昭和16年]

一九五〇年代
第36号1951[昭和26年]

一九六〇年代
第12号1961[昭和36年]

一九七〇年代
第29号1971[昭和46年]

一九八〇年代
第53号1981[昭和56年]

一九九〇年代
第95号1995[平成7年]

第88号1908[明治41年]

第89号1909[明治42年]

第90号1910[明治43年]

最新刊
第91号1991[平成3年]

第92号1992[平成4年]

■今後の刊行予定

▶第95号1995[平成7年]1月12日発売
阪神・淡路大震災!●「地下鉄サリン事件」●「米兵暴行事件」と沖縄の怒り●「ウィンドウズ95」日本発売!

▶第96号1996[平成8年]1月19日発売
ペルー日本大使公邸占拠!●中坊公平、住管機構社長に就任●「O157」の恐怖●ダイアナ妃、離婚!

▶第97号1997[平成9年]1月26日発売
「酒鬼薔薇聖斗」の"心の闇"●「ナホトカ号」重油流出●「たまごっち」「プリクラ」大ブーム●香港、返還!

▶第98号1998[平成10年]2月2日発売
横浜ベイスターズ、日本一!●山一証券、最後の日●「砒素混入」魔の連鎖反応●「テポドン1号」の真相

▶第99号1900[明治33年]2月9日発売
「パリ万博」、開幕!●「義和団事件」と日本軍の掠奪●「横浜居留地殺人事件」●鉄道唱歌、大ヒット!

▶第100号1868〜99[明治元〜32年]2月16日発売
●「日清戦争」開戦!●浅草に高層ビル「凌雲閣」●"明治の花嫁"花と光子●「大久保利通暗殺」とテロ

「日録20世紀・スペシャル」刊行決定!

1999年2月23日(火)刊行開始(本編100号終了後すぐ)。全20巻!

スペシャル第1号 日中戦争全記録!

スペシャル第2号 太平洋の戦い!

スペシャル第3号 悲劇の島・沖縄!

1. 日中戦争全記録! 幻のニュース写真[1](2月23日発売)
2. 太平洋の戦い! 幻のニュース写真[2](3月2日発売)
3. 悲劇の島・沖縄! 幻のニュース写真[3](3月9日発売)
4. 天皇家の1世紀
5. 20世紀二都物語・東京と大阪
6. スクープ写真集! 外国人が撮った「不思議の国NIPPON」
7. 20世紀災害史
8. ヒット商品「100年ブランド」
9. 20世紀「号外」集成
10. 20世紀「男と女の事件簿」
11. 秘話! 日本選手、かく戦えり
12. 怪盗・怪事件ファイル
13. 20世紀の発見・発掘物語
14. 我らの「テレビ時代」
15. 20世紀「食」事始め
16. 失われた"国宝"
17. 懐かしのオモチャ・絵本・遊び
18. 革命の20世紀「消えた王朝・帝国」
19. 20世紀「ヒット曲」物語
20. 20世紀「ライバル」物語

ミニ事典
1993年のキーワード

STARTⅡ
第二次戦略兵器削減条約。ブッシュ米大統領とエリツィン・ロシア大統領が、一月三日に調印した。両核大国が、二〇〇三年一月一日までに二段階に分けて、保有する戦略核弾頭数を三分の一、それぞれ三〇〇〇〜三五〇〇発に削減することを定めた。米国は戦略核の低次元安定をめざし、ロシアには、その意図に乗ることによって西側からの経済援助を引き出そうという思惑があった。

業者テスト
民間業者が作成・採点する中学生用学力テスト。高校進学・進路指導の重要な資料のひとつとして利用され、私立高校などで、事実上の合否判定に使われて問題化した。二月二二日、文部省は、中学校が業者テストの結果を高校に提供しないことなどを都道府県教委に通達、即時実施を迫った。平成四年末の文部省調査では、業者テストを実施していない中学校は北海道、長野県、大阪府だけにすぎなかった。

呼び寄せ老人
都市に住む子どもと同居したり、近くに住むため離郷した高齢者。東京都町田市が前年、過去五年間に転入してきた六五歳以上の高齢者について調査、それをNHKテレビが九月に放映して話題になった。調査によれば、高齢転入者の約半数が「呼び寄せ老人」。彼らは一見、娘や息子に呼んでもらった幸せな親たちだが、「さびしい」「郷里に帰りたい」などの感想を持つ人が多く、老人性痴呆の出現率も高いことがわかった。

ラムサール釧路会議
北海道釧路市で六月九日に開かれたラムサール条約締約国会議。九五ヵ国と一〇四のNGO(非政府組織)が参加。条約の正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。加盟国は「湿地」を一ヵ所以上登録、その保全が義務づけられる。この会議で日本は、以前から登録されていた釧路湿原、クッチャロ湖、ウトナイ湖、伊豆沼・内沼に加え、霧多布湿原、厚岸湖・別寒辺牛湿原、谷津干潟、片野鴨池、琵琶湖を加え、合計九ヵ所を登録指定地とした。

共同通信社

▲ラムサール会議の参加者たち。休会の日を利用し、地元の反対で登録を見送った風蓮湖を見学した。

ノドン1号
北朝鮮が開発を進める中距離弾道ミサイル。旧ソ連のスカッド・ミサイルの改良型。六月一一日、日本政府は、五月下旬に北朝鮮が日本海に向けて試射を行い成功したと発表。飛距離は推定約一〇〇〇キロで、実戦配備されれば、日本の大部分が射程距離内に入る。九月、防衛庁と米国防総省は急遽協議、対策を検討する作業グループを発足させた。

時事通信社

▲大田市の万博会場。人口100万人、韓国では6番目の都市だが、先端的な研究機関が集中している。

大田エキスポ'93
韓国の大田市で、八月七日から三ヵ月間開催された世界博覧会。国際事務局が公認した、初の「中進国」開催の万博。九〇ヘクタールの会場に約三〇のパビリオンが並び、リニアモーターカー、韓国初の宇宙ロケット、ソーラーカーなどの展示が、急成長する韓国のハイテクを世界に印象づけた。九月二二日の日本デーには、松崎しげるとコーラスグループ・サーカスが登場。韓国が許可した、初の日本の歌の公演となった。

共同通信社

▲成田空港に到着した、中国残留婦人たち。「祖国で死にたい」と訴え、念願をはたした。

強行帰国
中国残留婦人が、厚生省の援助を待たず、自力で故国・日本にやって来た事件。九月五日、一二人が成田空港に到着。片道の航空券しか持たず、その日泊まるあてもなかった。従来、永住帰国は親族がいることを前提とし、受け入れを拒否された場合は、本籍のある都道府県で特別身元引受人をさがすこととしてきた。「強行帰国」は、日本政府のこの悠長な対応への強烈な批判となった。

逆指名
プロ野球のドラフト会議で、選手側が希望球団を指名できる権利。大学・社会人の一、二位指名選手にのみ認められる。一一月二〇日のドラフト会議から実施。球団側に一方的な指名権を与えてきた、ドラフト制度の矛盾を解決する方策として採用された。重複指名が減り、選手の希望がかなえられるようになったが、契約金が急騰、そのしわ寄せで各球団の選手指名数が減る現象を生んだ。

ペットボトル症候群
清涼飲料水を飲みすぎて糖尿病になった若者が、清涼飲料水をさらに飲んで症状を悪化させること。この年、極端な例として昏睡におちいる若者が目立ち、中には数ヵ月間毎日のように一・五リットルのペットボトル二、三本を飲んでいた人もいた。彼らは糖分を取りすぎて血糖値が上がり、脱水症状になり、さらにのどが渇いて清涼飲料水を飲むという悪循環におちいっていた。

情報スーパーハイウェー構想
全米の研究機関、大学などを高速・大容量のコンピュータ・ネットワークで結び、情報インフラとして整備しようという構想。誕生早々のクリントン政権が、経済政策の柱のひとつとして打ち出した、競争力強化の具体策。ゴア副大統領が提唱。将来的には地方政府、教育・医療機関、図書館などの公的機関が作る地域ネットワークを、中央の基幹ネットワークに接続する壮大な目標を持つ。

週刊YEAR BOOK/日録20世紀 1993
CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室(茂村巨利)+渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正
●写真協力
金澤智康 神崎龍 木村恵一 小檜山毅彦 斉藤正則 Cynthia Johnson 但馬一憲 田中武仁 中村梧郎 古谷実
村山幸親 安田峯生 渡辺義雄
朝日新聞社 インペリアル・プレス AFP AP オリオン・プレス GAMMA 共同通信社 サンテレフォト 時事通信社 TIME 東京新聞社 日刊スポーツ PANA通信社 「FRIDAY」 報知新聞社 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 読売テレビ放送 ロイター WWP
シネカノン 松竹 ゼティマ 日立製作所 ポリドール
宮内庁 グリーンピース 国連開発計画東京連絡事務所 神宮司庁 ホワイトハウス

スパルタ品質。

PILOT

跳ね、払い、押さえ。日本の文字の特質を知り尽くすとペン先はどこまでも鍛えられる。

「永」。この一字の中に運筆のすべてが集約されるという。パイロットは日本人のあらゆる筆致に対応すべく、日本の文字の基本を見つめることから万年筆を開発。まず強度と柔軟性が同時に求められる地金部分は14Kがベストであると判断し、ペンポイントには超硬質の合金イリドスミンを溶接。そして毛筆を思わせる、しなやかさと弾力、滑らかな書き味を具現化し、書き手の嗜好に合わせ8種類のペン先を用意。書くという個性の表現にプロのまなざしと技で徹底的に臨む。これがパイロットの第一義である。

空気の流れ、インキの流れを追求していくと溝の切り方にも違いが出る。

そもそも毛細管現象により、文字が書ける万年筆。そのペン芯は空気溝、インキ溝、余分に流れ出るインキを溜めておく櫛溝から成る。単純な構造だが、それゆえ奥が深い。僅かな気圧・気温の変化でも、インキの流れに影響を与える。↗ボタ落ちがなく、いかなる場合でも最善の書き味を約束するためには、ひときわ精密な溝の設計、細部への入念さが不可欠だ。結果、コンバーターでインキを補充する際、インキ壜にペンの首までどっぷり浸ける必要がない吸入機構をも実現。精緻であるからこそ、ペン先を紙に当てた瞬間、人間本来の繊細にして温かい感覚が込み上げてくる。それがパイロットの誇りとするところだ。

ステイタスを飾る美しさだけではない。「万年」筆であるためには堅牢さも要求される。

鞘、軸と呼ばれる万年筆のボディ。そこにはいつまでも損なわれることのない美しさと強さを求め、アクリル樹脂を採用。ポケットに入れて服地と擦れ合っても、失われない光沢。手に力がこもっても、しなりのある腰。掌になじむ肌触り。それは単なるステイタスシンボルではない、実際に用いられてこそ真価を主張する「万年」筆であるために。そしてすべては時代が変わっても裏切ることのない品質のために。ペン先からボディに至るまで一貫生産して世に送り出すこと。これこそパイロットの信念である。

カスタム 743FKK-3000R-B 30,000円

ぬくもりを伝えるものだから、
こだわりを持ってつくりたい。

CUSTOM

http://www.pilot.co.jp

シャープペンシル、ボールペンもあります。

カスタム 74HKK-1000R 10,000円

カスタム 74BKK-1000R 10,000円

（価格は税抜き）

定価560円
雑誌 23712 1/12
Ⓛ 2001/1/1
T1123712010569

印刷　凸版印刷株式会社　製本　大村製本株式会社